

エトフェンプロックス (案)

今般の残留基準の検討については、農薬取締法に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定依頼が農林水産省からなされたこと及び海外機関から「国外で使用される農薬等に係る残留基準の設定及び改正に関する指針について」に基づく残留基準の設定要請がなされたことに伴い、食品安全委員会において食品健康影響評価がなされたことを踏まえ、農薬・動物用医薬品部会において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

1. 概要

(1) 品目名：エトフェンプロックス [Etofenprox (ISO)]

(2) 分類：農薬

(3) 用途：殺虫剤

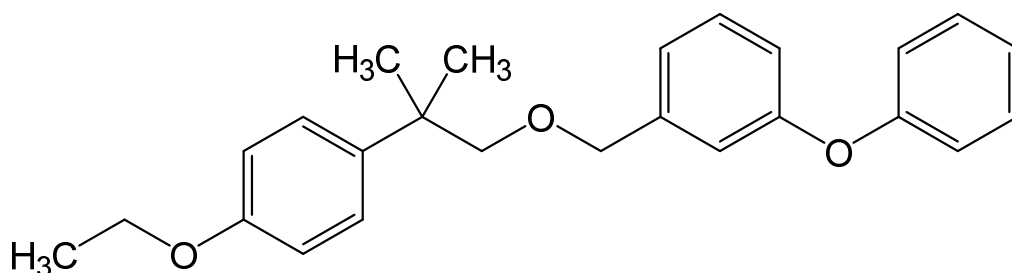
ピレスロイド系の殺虫剤である。神経軸索におけるナトリウムチャンネルの働きを阻害することにより、殺虫活性を示すと考えられている。

(4) 化学名及びCAS番号

1-{[2-(4-Ethoxyphenyl)-2-methylpropoxy]methyl}-3-phenoxybenzene (IUPAC)

Benzene, 1-[[2-(4-ethoxyphenyl)-2-methylpropoxy]methyl]-3-phenoxy-
(CAS : No. 80844-07-1)

(5) 構造式及び物性



分子式	$C_{25}H_{28}O_3$
分子量	376.49
水溶解度	2.25×10^{-5} g/L (20°C)
分配係数	$\log_{10}P_{ow} = 6.9$ (20°C)

2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の適用の範囲及び使用方法は以下のとおり。

(1) 国内での使用方法

【作物名】、【使用時期】となっているものについては、今回農薬取締法（昭和23年法律第82号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

① 20.0%エトフェンプロックスマイクロカプセル剤 A

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1000～ 2000倍	60～150 L/10 a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
	カメムシ類 イネドロオイムシ	2000倍					
	イナゴ類 コブノメイガ	1000倍					
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	600倍	25 L/10 a				
ばれいしょ	アブラムシ類	1000倍	100～300 L/10 a	収穫7日前 まで	2回以内	3回以内	
だいず えだまめ	カメムシ類 ハスモンヨトウ マメシクイガ			収穫14日前 まで			
きゅうり	アブラムシ類 ウリノメイガ			収穫前日 まで	3回以内		
なす	アブラムシ類			収穫3日前 まで			
キャベツ	ハイマダラノメイガ アオムシ ヨトウムシ			収穫7日前 まで			
はくさい	アブラムシ類 ヨトウムシ			収穫21日前 まで			
だいこん				収穫14日前 まで			
てんさい	ヨトウムシ			収穫14日前 まで			

① 20.0%エトフェンプロックスマイクロカプセル剤B

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ	60倍	3 L/10 a	収穫14日前まで	3回以内	空中散布	3回以内
	ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ イナゴ類	16倍	0.8 L/ 10 a				
	ヒメトビウンカ カメムシ類						
小麦	アブラムシ類	8~16倍	1.6 L/ 10 a	2回以内	無人ヘリコプターによる散布	2回以内	
だいず	ハスモンヨトウ カメムシ類						
	マメシクイガ						
てんさい	ヨトウガ	16倍		3回以内		3回以内	

② 20.0%エトフェンプロックス乳剤

作物名	適用場所	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	-	コブノメイガ	1000倍	60~150 L/10 a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
		ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネドロオイムシ イナゴ類	1000~ 2000倍					
		カメムシ類 イネミズゾウムシ	2000倍					
		ウンカ類	300~ 600倍	25 L/10 a				
		ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	300倍					
		カメムシ類	600倍					
麦類	ヒメトビウンカ アブラムシ類	2000倍	60~150 L/10 a	2回以内		2回以内		
きび	アカスジカスミカメ	1000倍	100~300 L/10 a	3回以内	4回以内	4回以内		
あわ	アワヨトウ アワノメイガ							
とうもろこし	アワノメイガ アワヨトウ							
かんきつ	コアオハナムグリ ケシキスイ類	1000~ 2000倍	200~700 L/10 a	3回以内	収穫前日まで	3回以内		
	ミカンハモグリガ							
	チャノキイロ アザミウマ						2000倍	
マンゴー	アザミウマ	1000倍		3回以内	収穫7日前まで			
ブロッコリー	アオムシ	1000~ 2000倍	100~300 L/10 a	3回以内	収穫前日まで			

注) -：規定されていない項目

② 20.0%エトフェンプロックス乳剤 (つづき)

作物名	適用場所	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数			
キャベツ	—	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～ 2000倍	100～300 L/10 a	収穫3日前 まで	3回以内	散布	3回以内			
はくさい					収穫7日前 まで						
だいこん					収穫21日前 まで						
ねぎ		シロイチモジヨトウ	1000倍		収穫14日前 まで	2回以内			2回以内		
レタス		アブラムシ類									
すいか		アブラムシ類 コナジラミ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ	1000倍		100～300 L/10 a	収穫3日前 まで			3回以内	3回以内	
きゅうり		アブラムシ類 コナジラミ類		収穫前日 まで		4回以内		4回以内			
メロン		アブラムシ類 ウリノメイガ カメムシ類 コナジラミ類 ヨトウムシ類		3回以内					収穫前日 まで	3回以内	3回以内
にがうり		コナジラミ類 ウリハムシ									
かぼちゃ		アブラムシ類				1000～ 2000倍					
なす		コナジラミ類		1000～ 2000倍							
トマト		アブラムシ類									
ピーマン		アブラムシ類 カメムシ類									
オクラ		シロイチモジヨトウ ヨトウムシ ウラナミシジミ				1000倍					
さやえんどう 実えんどう		ワタアブラムシ ウラナミシジミ マメノメイガ									
さやいんげん		マメシクイガ シロイチモジマダラ メイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ウコンノメイガ ツメクサガ	1000～ 2000倍	収穫14日前 まで		2回以内		2回以内			
えだまめ		ハスモンヨトウ									
未成熟ささげ		アブラムシ類	1000倍	収穫前日 まで							

② 20.0%エトフェンプロックス乳剤 (つづき)

作物名	適用場所	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	
ばれいしょ	-	アブラムシ類	1000倍	100~300 L/10 a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
かんしょ		ナカジロシタバ アブラムシ類 ハスモンヨトウ							収穫14日前 まで
さといも		ハスモンヨトウ							
さといも (葉柄)									
やまのいも		アブラムシ類							
やまのいも (むかご)		ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ							
豆類 (種実、 ただし、 だいず、 あずきを 除く)		マメシクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダ ラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ			収穫14日前 まで	2回以内	2回以内		
だいず		マメシクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダ ラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ ウコンノメイガ ツメクサガ							
あずき		マメシクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダ ラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ ノメイガ類							
ほうきぎ		ホウキギツツミノガ			収穫30日前 まで				
しょうが		ハスモンヨトウ			収穫7日前 まで	3回以内		3回以内	
葉しょうが									

② 20.0%エトフェンプロックス乳剤 (つづき)

作物名	適用場所	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
てんさい	-	ヨトウムシ	1000～2000倍	100～300 L/10 a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
モロヘイヤ		アザミウマ類	1000倍			1回		1回
あしたば		アブラムシ類	2000倍			3回以内		3回以内
ふき		コナジラミ類 フキノメイガ ヨトウムシ	1000倍		2回以内			
うど		アブラムシ類				2000倍		根株養成期 ただし、 収穫45日前 まで
みつば			収穫21日前 まで ただし、 伏せ込み栽培は伏せ込 み前まで					
食用ぎく			収穫3日前 まで					
せり (水耕栽培)	ガラス室等 の施設	アブラムシ類	1000倍	100～150 L/10 a	収穫30日前 まで	2回以内	散布	2回以内
せり	水田	オキナワイナゴモドキ	1000倍	100～150 L/10 a	収穫14日前	3回以内		3回以内
みずいも								
茶	-	チャノホソガ チャノミドリヒメ ヨコバイ チャノキイロ アザミウマ	2000倍	200～400 L/10 a	摘採21日前 まで	2回以内		2回以内

③ 20.0%エトフェンプロックス水和剤

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類 カメムシ類	2000倍	60～150 L/10 a	収穫21日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
かんきつ	チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ カネタタキ ケシキスイ類 コアオハナムグリ		200～700 L/10 a	収穫前日 まで			

③ 20.0%エトフェンプロックス水和剤 (つづき)

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数					
りんご	モモシンクイガ キンモンホソガ	1000～ 2000倍	200～700 L/10 a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	3回以内					
	ハマキムシ類	2000倍										
なし	シンクイムシ類 ナシチビガ アブラムシ類	1000～ 2000倍										
	ハマキムシ類 ケムシ類	2000倍										
もも	モモハモグリガ	1000倍										
	シンクイムシ類	2000倍										
くり	クリシギゾウムシ											
かき	カキノヘタムシガ チャミノガ	1000～ 2000倍						1000倍	収穫30日 前まで			
	ハマキムシ類 カメムシ類 チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ											

④ 10.0%エトフェンプロックス乳剤 A

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イナゴ類 イネドロオイムシ カメムシ類 イネミズゾウムシ コブノメイガ	1000倍	60～150 L/10 a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	3回以内
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	300倍	25 L/10 a				
麦類	アブラムシ類		60～150 L/10 a		2回以内		2回以内
とうもろこし	ツマジロクサヨトウ	1000倍	100～300 L/10 a	収穫7日 前まで	4回以内		4回以内
ばれいしょ	アブラムシ類			収穫14日 前まで	3回以内		3回以内
やまのいも							
だいず えだまめ	マメシンクイガ ハスモンヨトウ カメムシ類			2回以内	2回以内		
さやえんどう 実えんどう	ウラナミシジミ シロイチモジヨトウ			3回以内	3回以内		
きゅうり なす	コナジラミ類 アブラムシ類			4回以内	4回以内		
すいか	アブラムシ類			収穫3日 前まで	4回以内		
メロン							
トマト	コナジラミ類			2回以内	2回以内		

④ 10.0%エトフェンプロックス乳剤 A (つづき)

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数		
キャベツ	アブラムシ類 ヨトウムシ アオムシ	1000倍	100~300 L/10 a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内		
はくさい				収穫7日前まで					
だいこん				収穫21日前まで					
ねぎ	シロイチモジヨトウ						2回以内		2回以内
レタス	アブラムシ類						3回以内		3回以内
てんさい	ヨトウムシ						2回以内		2回以内
エンサイ	イモコガ								
うど	アブラムシ類			根株養成期 ただし、 収穫45日前 まで					

④ 10.0%エトフェンプロックス乳剤 B

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	コブノメイガ イナゴ類 ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ	30倍	3 L / 10 a	収穫14日前 まで	3回以内	空中散布	3回以内
	イナゴ類 ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ	8倍	0.8 L / 10 a			無人航空機 による散布	
	コブノメイガ イナゴ類 ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ						
麦類	ヒメトビウンカ						
だいず えだまめ	ハスモンヨトウ カメムシ類 マメシンクイガ				2回以内		2回以内
あずき	アズキノメイガ						
ばれいしょ	アブラムシ類			収穫7日前 まで	3回以内		3回以内
キャベツ	アブラムシ類 ヨトウムシ アオムシ			収穫3日前 まで			
だいこん				収穫21日前 まで			
ねぎ	シロイチモジヨトウ			収穫7日前 まで			3回以内
しょうが	アワノメイガ			収穫14日前 まで	3回以内		3回以内
やまのいも	ヤマノイモコガ アブラムシ類		3.2 L / 10 a				

⑤ 4.0%エトフェンプロックス油剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	イネミズゾウムシ イネドロオウムシ	200～300 mL (水溶性容器4～6個) /10 a	5葉期以降 収穫21日前 まで	3回以内	原液を田面水 に滴下または 入水時水口に 滴下 (本田に水溶 性容器のまま 投げ入れる。)	3回以内
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ 第1世代	500 mL (水溶性容器10個) /10 a				
	イナゴ類 (イネクロカメムシ)	300～500 mL (水溶性容器6～10個) /10 a				

() : 油状液体水溶性容器入り

⑥ 1.5%エトフェンプロックス粒剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	イネミズゾウムシ イネドロオウムシ イネゾウムシ イネヒメハモグリバエ イナゴ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	2～3 kg/10 a	収穫21日前 まで	3回以内	散布	3回以内
	ニカメイチュウ 第1世代	3 kg/10 a	収穫14日前 まで			
れんこん	イネネクイハムシ		収穫14日前 まで			
さとうきび	ハリガネムシ類	9 kg/10 a	植付時	1回	植溝土壌混和	1回
畑わさび	ナトビハムシ	3 kg/10 a	収穫14日前 まで		散布	2回以内 (植付時の 土壌混和は 1回以内、 散布は1回以内)
	ワサビルリイロサ ルゾウムシ		畑育苗期 ただし、 植付時		植溝土壌混和	
わさび	ナトビハムシ			畑育苗期	散布	

⑦ 0.50%エトフェンプロックス粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	
稲	イネツトムシ	4 kg/10 a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	カメムシ類 イネミズゾウムシ成虫 ツマグロヨコバイ ウンカ類 コブノメイガ アザミウマ類 イナゴ類 イネドロオイムシ ニカメイチュウ	3~4 kg/10 a					
	イネヒメハモグリハエ フタオビコヤガ	3 kg/10 a					
小麦	ヒメトビウンカ アブラムシ類	4 kg/10 a	収穫14日前まで	2回以内			2回以内
トマト	コナジラミ類		収穫前日まで	3回以内			3回以内
なす	テントウムシダマシ類						
オクラ	アブラムシ類						
すいか	ハスモンヨトウ ウリハムシ		収穫3日前まで				
きゅうり	ウリハムシ	3~4 kg/10 a	収穫前日まで				
だいこん	ダイコンサルハムシ	4 kg/10 a	収穫21日前まで	3回以内			3回以内
	アオムシ	3~4 kg/10 a	収穫7日前まで				
はくさい	コナガ	4 kg/10 a		収穫14日前まで	2回以内	2回以内	
豆類 (種実)	ハスモンヨトウ マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤタマバエ アブラムシ類 アズキノメイガ						
	えだまめ		ハスモンヨトウ				3~4 kg/10 a
	マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤタマバエ	4 kg/10 a	収穫14日前まで	2回以内			
やまのいも	シロイチモジヨトウ						
さといも	ハスモンヨトウ						
かんしょ	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ				3回以内		
ばれいしょ	テントウムシダマシ類				収穫7日前まで		
とうもろこし	アワノメイガ				4回以内		
キャベツ	ハスモンヨトウ アブラムシ類 アオムシ	3~4 kg/10 a	収穫3日前まで	3回以内	3回以内		
れんこん	マメコガネ	4 kg/10 a	収穫14日前まで				

⑧ 0.40%エトフェンプロックス粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類	3 kg/10	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内

⑨ 0.020%エトフェンプロックス乳剤

作物名	適用	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	
かんきつ	コアオハナムグリ ケシキスイ類 ミカンハモグリガ アゲハ類	原液	収穫前日まで	3回以内	希釈せず そのまま 散布する	3回以内	
レタス	アブラムシ類		収穫14日前まで				
キャベツ	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類		収穫3日前まで				
はくさい			収穫7日前まで				
だいこん			収穫21日前まで	2回以内		2回以内	
ねぎ	シロイチモジヨトウ						
すいか	アブラムシ類 コナジラミ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ		収穫3日前まで				
にがうり	アブラムシ類 ウリノメイガ カメムシ類 コナジラミ類 ヨトウムシ類		収穫前日まで	3回以内			3回以内
ブロッコリー	アオムシ						
かぼちゃ	コナジラミ類 ウリハムシ						
メロン			収穫3日前まで	4回以内			4回以内
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類					3回以内	3回以内
なす						2回以内	2回以内
トマト						2回以内	2回以内
ピーマン	アブラムシ類					3回以内	3回以内
オクラ	カメムシ類 アブラムシ類					3回以内	3回以内
さやえんどう 実えんどう	シロイチモジヨトウ ヨトウムシ ウラナミシジミ					2回以内	2回以内
さやいんげん	ワタアブラムシ ウラナミシジミ マメノメイガ						

⑨ 0.020%エトフェンプロックス乳剤（つづき）

作物名	適用	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
えだまめ	マメシクイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ウコンノメイガ ハスモンヨトウ	原液	収穫14日前まで	2回以内	希釈せず そのまま 散布する	2回以内
だいず	マメシクイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ウコンノメイガ ハスモンヨトウ アブラムシ類					
あずき	ノメイガ類					
未成熟ささげ	アブラムシ類		収穫前日まで	1回		1回
モロヘイヤ	アザミウマ類		収穫14日前まで			
とうもろこし	アワノメイガ アワヨトウ		収穫7日前まで	4回以内		4回以内
ばれいしょ	アブラムシ類					
かんしょ	ナカジロシタバ アブラムシ類 ハスモンヨトウ		収穫14日前まで	3回以内		3回以内
やまのいも やまのいも (むかご)	アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ					
さといも	ハスモンヨトウ		収穫7日前まで	3回以内		3回以内
さといも (葉柄) しょうが 葉しょうが						
ふき	コナジラミ類 フキノメイガ ヨトウムシ		収穫14日前まで	3回以内		3回以内
てんさい	ヨトウムシ					

⑩ 10.0%エトフェンプロックス・8.0%アゾキシストロビンフロアブル

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1000倍	60～150 L/10 a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
		300倍	25 L/10 a				
		30倍	3 L/10 a			空中散布	
		8倍	800 mL/10 a			無人航空機 による散布	
だいち	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ アブラムシ類	1000倍	100～400 L/10 a	収穫21日前 まで	2回以内	散布	2回以内
		8倍	800 mL/10 a			無人航空機 による散布	

⑪ 10.0%エトフェンプロックス・20.0%フサライドフロアブル

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1000倍	60～150 L/10 a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
		300倍	25 L/10 a				
		8倍	800 mL/10 a			無人航空機 による散布	

⑫ 10.0%エトフェンプロックス・40.0%MEP 乳剤

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ニカメイチュウ コブノメイガ イナゴ類	1000倍	100～150 L/10 a	収穫21日前 まで	2回以内	散布	3回以内
	ツマグロヨコバイ ウンカ類 カメムシ類 イネドロオイムシ	1000～ 2000倍					
	ツマグロヨコバイ ウンカ類 カメムシ類	8倍	800 mL/10 a			無人ヘリコ プターによ る散布	
だいち	カメムシ類						2回以内

⑬ 10.0%エトフェンプロックス・1.37%カスガマイシン・8.0%トリシクラゾールフロアブル

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類 コブノメイガ	1000倍	60～200 L/10 a	穂揃期 まで	2回以内	散布	3回以内
	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	300倍	25 L/10 a				
		8倍	800 mL/10 a			空中散布	
いもち病 ウンカ類 カメムシ類	30倍	3 L/10 a					

⑭ 7.0%エトフェンプロックス・3.0%ジノテフランフロアブル

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類 ウンカ類 コブノメイガ ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ	1000倍	60～150 L/10 a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	3回以内
	カメムシ類	300倍	25 L/10 a				
	カメムシ類 ウンカ類 コブノメイガ ツマグロヨコバイ	8倍	0.8 L/10 a				
だいた	カメムシ類				2回以内		2回以内

⑮ 6.2%エトフェンプロックス・8.0%トリシクラゾールフロアブル

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	120～180倍	25 L/10 a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	3回以内
		650倍	100～150 L/10 a				
		20倍	3 L/10 a			空中散布	
		5倍	800 mL/10 a				
	いもち類 ウンカ類 カメムシ類	原液	150 mL/10 a			無人ヘリコ プターによ る散布	
5倍	800 mL/10 a						

⑩ 5.0%エトフェンプロックス・15.0%フェリムゾン・10.0%フサライド水和剤

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ごま葉枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌) ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	500倍	60～150 L/10 a	収穫14日 前まで	2回以内	散布	3回以内

⑪ 1.0%エトフェンプロックス・4.0%カルタップ粒剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネミズゾウムシ コブノメイガ イネドロオイムシ	3 kg/10 a	収穫30日前 まで	3回以内	散布	3回以内

⑫ 1.0%エトフェンプロックス・5.0%ピロキロン粒剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ニカメイチュウ 第一世代 イナゴ類	4 kg/10 a	出穂5日前 まで	2回以内	散布	3回以内
	いもち病 ツマグロヨコバイ ウンカ類	3～4 kg/10 a				

⑬ 0.50%エトフェンプロックス・2.0%カルタップ粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ ウンカ類 コブノメイガ イネツトムシ フタオビコヤガ イネドロオイムシ アザミウマ類 イナゴ類	3～4 kg/10 a	収穫21日前 まで	3回以内	散布	3回以内
	カメムシ類 イネミズゾウムシ 成虫	4 kg/10 a				
キャベツ	コナガ アブラムシ類		収穫14日前 まで			

⑳ 0.50%エトフェンプロックス・2.0%MEP 粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ニカメイチュウ コブノメイガ ツマグロヨコバイ ウンカ類 カメムシ類 アザミウマ類 イナゴ類	3~4 kg/10 a	収穫21日前 まで	2回以内 (ただし、 出穂前は1回)	散布	3回以内
	イネヒメハモグリバエ イネドロオイムシ	3 kg/10 a				
	イネツトムシ	4 kg/10 a				

㉑ 0.50%エトフェンプロックス・1.0%トリシクラゾール・3.0%メプロニル粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 ツマグロヨコバイ ウンカ類 アザミウマ類 イナゴ類 コブノメイガ	3~4 kg/10 a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
	カメムシ類 イネツトムシ 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	4 kg/10 a				

㉒ 0.50%エトフェンプロックス・0.30%バリダマイシン・2.0%フェリムゾン・1.5%フサライド粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 ごま葉枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌) 変色米 (アルタナリア菌) 変色米 (カーブラリア菌) 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌) 疑似紋枯症 (褐色菌核病菌) 疑似紋枯症 (褐色紋枯病菌) ツマグロヨコバイ ウンカ類 イナゴ類	3~4 kg/10 a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	3回以内
	カメムシ類	4 kg/10 a				

②③ 0.50%エトフェンプロックス・1.0%テブフロキン粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	3~4 kg/10 a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	3回以内
だいず	紫斑病 フタスジヒメハムシ カメムシ類 マメシクイガ ハスモンヨトウ ダイズサヤタマバエ					2回以内

②④ 0.50%エトフェンプロックス・6.8%銅粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
だいず えだまめ	紫斑病 マメシクイガ カメムシ類	3~4 kg /10 a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内

②⑤ 0.50%エトフェンプロックス・0.50%トリシクラゾール粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ツマグロヨコバイ ウンカ類 コブノメイガ	3~4 kg/10 a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
	イネツトムシ カメムシ類 穂枯れ（ごま葉枯病菌）	4 kg/10 a				

②⑥ 0.50%エトフェンプロックス・2.0%フェリムゾン・1.5%フサライド粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ごま葉枯病 穂枯れ（ごま葉枯病菌） 変色米（カーブラリア菌） ツマグロヨコバイ ウンカ類	3~4 kg/10 a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	3回以内
	カメムシ類	4 kg/10 a				

⑳ 0.50%エトフェンプロックス・0.11%カスガマイシン・0.50%トリシクラゾール粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ツマグロヨコバイ ウンカ類 カメムシ類 コブノメイガ	3~4 kg/10 a	穂揃期 まで	2回以内	散布	3回以内

㉑ 0.40%エトフェンプロックス・0.20%ジノテフラン粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ	3~4 kg/10 a	収穫7日 まで	3回以内	散布	3回以内
	ニカメイチュウ コブノメイガ フタオビコヤガ	4 kg/10 a				
だいず	カメムシ類 フタスジヒメハムシ	3~4 kg/10 a	収穫14日 前まで	2回以内		2回以内

㉒ 0.3%エトフェンプロックス・1.0%チオシクラム粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	イネドロオイムシ ヒメトビウンカ イネミズゾウムシ フタオビコヤガ	3 kg/10 a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内

㉓ 0.30%エトフェンプロックス・0.50%ジノテフラン粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 カメムシ類 イナゴ類 ニカメイチュウ	3 kg/10 a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内

㉔ 0.020%エトフェンプロックス・0.040%DBEDC 水和剤（スプレー）

作物名	適用	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
きゅうり	うどんこ病 べと病 アブラムシ類 コナジラミ類	原液	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
トマト	灰色かび病 葉かび病 アブラムシ類 コナジラミ類			2回以内		2回以内

(2) 海外での使用方法

まくわうりに係る残留基準の設定について今回インポートトレランス申請がなされており、**作物名**となっているものは、今回の申請にかかる作物を示している。

① 10%エトフェンプロックス・1.5%インドキサカルブ水和剤 (韓国)

作物名	適用	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法
とうがらし	タバコガ	2000倍	収穫5日前まで	3回以内	散布

② 8%エトフェンプロックス・7%ジフルベンズロンフロアブル (韓国)

作物名	適用	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法
とうがらし	タバコガ	1000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布

③ 8%エトフェンプロックス・7.5%ピリダリルマイクロエマルジョン (韓国)

作物名	適用	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法
まくわうり	Beet armyworm	1000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布

3. 代謝試験

(1) 植物代謝試験

植物代謝試験が、稲、さやいんげん、ぶどう、なたね及びレタスで実施されており、可食部で10%TRR^{注)}以上認められた代謝物は、代謝物IV及び代謝物VIII(玄米)であった。

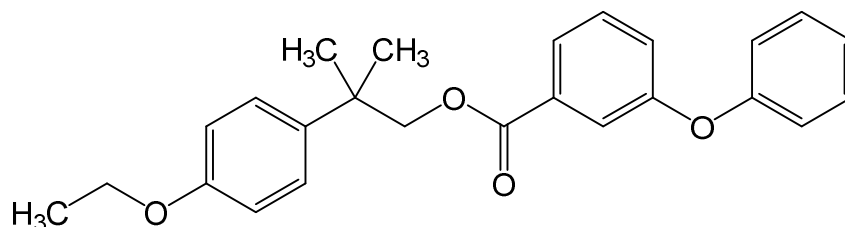
注) %TRR：総放射性残留物 (TRR：Total Radioactive Residues) 濃度に対する比率 (%)

(2) 家畜代謝試験

家畜代謝試験が、泌乳山羊及び産卵鶏で実施されており、泌乳山羊の可食部で10%TRR以上認められた代謝物は、代謝物II、代謝物XI、代謝物VIII並びに代謝物VII及び代謝物IXの混合物であった。産卵鶏の可食部で10%TRR以上認められた代謝物があったが、同定できなかった。

【代謝物略称一覧】

略称	化学名
代謝物II	2-(4-ヒドロキシフェニル)-2-メチルプロピル-3-フェノキシベンジルエーテル
代謝物IV	2-(4-エトキシフェニル)-2-メチルプロピル-3-フェノキシベンゾエート
代謝物VII	3-フェノキシベンジルアルコール
代謝物VIII	3-フェノキシ安息香酸
代謝物IX	2-(4-エトキシフェニル)-2-メチルプロパン-1-オール
代謝物XI	2-(4-エトキシフェニル)-2-メチルプロピオン酸



代謝物IV

注) 残留試験の分析対象となっている代謝物について構造式を明記した。

4. 作物残留試験

(1) 分析の概要

【国内】

① 分析対象物質

- ・エトフェンプロックス
- ・代謝物IV

② 分析法の概要

i) エトフェンプロックス

試料からアセトンで抽出し、*n*-ヘキサンに転溶した後、フロリジルカラムを用いて精製する。ヨードトリメチルシランと反応させて3-フェノキシベンジルヨウ素誘導体に変換した後、*n*-ヘキサンに転溶し、フロリジルカラムを用いて精製した後、電子捕獲型検出器付きガスクロマトグラフ (GC-ECD) 又は紫外分光光度型検出器付き高速液体クロマトグラフ (HPLC-UV) で定量する。

または、試料からアセトンで抽出し、*n*-ヘキサン等に転溶後、必要に応じてアセトニトリル/*n*-ヘキサン分配を行う。フロリジルカラム、PSA・中性アルミナ連結カラム又はGPC及びフロリジルカラムを用いて精製し、HPLC-UV、液体クロマトグラフ・質量分析計 (LC-MS)、液体クロマトグラフ・タンデム型質量分析計 (LC-MS/MS) 又はガスクロマトグラフ・質量分析計 (GC-MS) で定量する。

あるいは、試料からアセトンで抽出し、C₁₈カラム及びフロリジルカラム、多孔性ケイソウ土カラム又は多孔性ケイソウ土カラム及びフロリジルカラムを用いて精製した後、GC-MS、HPLC-UV、LC-MS又はLC-MS/MSで定量する。

定量限界：0.004～0.30 mg/kg

ii) 代謝物IV

試料からアセトンで抽出し、*n*-ヘキサンに転溶した後、シリカゲルカラムを用いて精製する。2 mol/L水酸化カリウム溶液とイソプロパノール中で加熱還流して加水分解し、3-フェノキシ安息香酸に変換する。更に2,2,2-トリクロロエタノールと無水トリフルオロ酢酸中で加熱して2,2,2-トリクロロエチル *m*-フェノキシベンゾエートに変換し、*n*-ヘキサンに転溶後、GC-ECDで定量する。

または、試料からアセトンで抽出し、*n*-ヘキサン等に転溶した後、必要に応じてアセトニトリル/*n*-ヘキサン分配を行う。フロリジルカラムを用いて精製し、HPLC-UV、LC-MS又はGC-MSで定量する。

あるいは、試料からアセトンで抽出し、C₁₈カラム及びフロリジルカラム又は多孔性ケイソウ土カラムを用いて精製した後、LC-MS又はLC-MS/MSで定量する。

なお、代謝物IVの分析値は、換算係数0.964を用いてエトフェンプロックス濃度に換算した値として示した。

定量限界：0.01 mg/kg（エトフェンプロックス換算濃度）

【海外】

① 分析対象物質

・エトフェンプロックス

② 分析法の概要

試料からアセトンで抽出し、*n*-ヘキサンに転溶した後、シリカゲルカラム及びフロリジルカラムを用いて精製し、HPLC-UVで定量する。

定量限界：0.01 mg/kg

(2) 作物残留試験結果

国内で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙 1-1、海外で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙 1-2 を参照。

5. 魚介類における推定残留濃度

本剤については水系を通じた魚介類への残留が想定されることから、本剤の水域環境中予測濃度^{注1)}及び生物濃縮係数（BCF：Bioconcentration Factor）から、以下のとおり魚介類中の推定残留濃度を算出した。

(1) 水域環境中予測濃度

本剤が水田及び水田以外のいずれの場合においても使用されることから、水田 PECTier2^{注2)}及び非水田 PECTier1^{注3)}を算出したところ、水田 PECTier2は0.0058 µg/L、非水田 PECTier1は0.036 µg/Lとなったことから、非水田 PECTier1の0.036 µg/Lを採用した。

(2) 生物濃縮係数

エトフェンプロックス（高濃度区：0.001 mg/L、低濃度区：0.0002 mg/L）を用いた60日間の取込期間及び62日間の排泄期間を設定したブルーギルの魚類濃縮性試験が実施された。エトフェンプロックスの分析の結果から、BCF_{ss}^{注4)}は4260 L/kg（高濃度区）、3956 L/kg（低濃度区）と算出された。

(3) 推定残留濃度

(1)及び(2)の結果から、エトフェンプロックスの水域環境中予測濃度：0.036 µg/L、BCF：4260 L/kgとし、下記のとおり推定残留濃度を算出した。

$$\text{推定残留濃度} = 0.036 \mu\text{g/L} \times (4260 \text{ L/kg} \times 5) = 770 \mu\text{g/kg} = 0.77 \text{ mg/kg}$$

注1) 農薬取締法第4条第1項第8号に基づく水域の生活環境動植物の被害防止に係る農薬登録基準設定における規定に準拠

注2) 水田中や河川中での農薬の分解や土壌・底質への吸着、止水期間等を考慮して算出

注3) 既定の地表流出率、ドリフト率で河川中に流入するものとして算出

注4) BCF_{ss}: 定常状態における被験物質の魚体中濃度と水中濃度の比で求められたBCF

(参考) 平成19年度厚生労働科学研究費補助金食品の安心・安全確保推進研究事業「食品中に残留する農薬等におけるリスク管理手法の精密化に関する研究」分担研究「魚介類への残留基準設定法」報告書

6. 畜産物における推定残留濃度

本剤については、飼料として給与した作物を通じ家畜の筋肉等への移行が想定されることから、飼料の最大給与割合等から算出した飼料中の残留農薬濃度と動物飼養試験の結果を用い、以下のとおり畜産物中の推定残留濃度を算出した。

(1) 分析の概要

① 分析対象物質

- ・ エトフェンプロックス
- ・ 代謝物IV

② 分析法の概要

i) エトフェンプロックス

乳牛について、試料から酢酸エチル・*n*-ヘキサン混液で抽出し、組織の場合は、さらにアセトニトリル/ヘキサン分配する。フロリジルカラムを用いて精製し、ヨードトリメチルシランと反応させて3-フェノキシベンジルヨウ素誘導体に変換した後、GC-ECDで定量する。

定量限界：0.05 mg/kg

ii) エトフェンプロックス及び代謝物IV

産卵鶏について、筋肉、脂肪、肝臓及び卵黄は、試料からアセトンで抽出し、アセトニトリル/ヘキサン分配した後、フロリジルカラムを用いて精製し、LC-MS/MSで定量する。卵白は、試料からアセトンで抽出し、LC-MS/MSで定量する。

定量限界：0.01 mg/kg

(2) 家畜残留試験（動物飼養試験）

① 乳牛における残留試験

乳牛（ホルスタイン種、3～5頭/群）に対して、0.5、1.5及び50 ppmを含む飼料を28日間にわたり摂食させ、筋肉、脂肪、肝臓、腎臓に含まれるエトフェンプロックスの濃度を測定した。乳については、投与開始日から投与期間中に採取した乳に含まれるエトフェンプロックスの濃度を測定した。結果は表1を参照。

表 1. 乳牛の試料中の残留濃度 (mg/kg)

	0.5 ppm 投与群	1.5 ppm 投与群	50 ppm 投与群
筋肉	<0.05 (最大)	<0.05 (最大)	0.35 (最大)
	<0.05 (平均)	<0.05 (平均)	0.18 (平均)
脂肪	0.54 (最大)	1.9 (最大)	14 (最大)
	0.38 (平均)	1.2 (平均)	9.8 (平均)
肝臓	<0.05 (最大)	<0.05 (最大)	0.63 (最大)
	<0.05 (平均)	<0.05 (平均)	0.41 (平均)
腎臓	<0.05 (最大)	0.05 (最大)	1.2 (最大)
	<0.05 (平均)	0.05 (平均)	0.62 (平均)
乳	<0.05 (平均)	0.05 (平均)	1.2 (平均)

定量限界：筋肉 0.05 mg/kg、脂肪 0.05 mg/kg、肝臓 0.05 mg/kg、腎臓 0.05 mg/kg、乳 0.05 mg/kg

② 産卵鶏における残留試験

産卵鶏（白色レグホン種、211日齢）に対して、5、15及び50 ppmを含む飼料を28日間にわたり摂食させ、筋肉、脂肪、肝臓に含まれるエトフェンプロックス及び代謝物IVの濃度を測定した。鶏卵については、毎日採卵して、エトフェンプロックス及び代謝物IVの濃度を測定した。結果は表2を参照。代謝物IVについては測定した全ての試料において検出されなかった。

表 2. 産卵鶏の試料中の残留濃度 (mg/kg)

	5 ppm 投与群	15 ppm 投与群	50 ppm 投与群
筋肉	0.02 (最大)	0.04 (最大)	0.06 (最大)
	0.02 (平均)	0.03 (平均)	0.05 (平均)
脂肪	0.79 (最大)	1.7 (最大)	3.8 (最大)
	0.69 (平均)	1.7 (平均)	3.5 (平均)
肝臓	0.08 (最大)	0.13 (最大)	0.29 (最大)
	0.07 (平均)	0.10 (平均)	0.16 (平均)
卵 ^{注)}	0.07 (最大)	0.19 (最大)	0.40 (最大)
	0.05 (平均)	0.12 (平均)	0.25 (平均)

定量限界：筋肉 0.01 mg/kg、脂肪 0.01 mg/kg、肝臓 0.01 mg/kg、卵 0.01 mg/kg

注) 卵黄と卵白の重量比から算出した。

③ 産卵鶏における代謝試験

産卵鶏（白色レグホン種、5～8ヶ月齢、5匹/群）に対して、飼料中濃度として0.9及び9.6 ppmに相当する量のエトフェンプロックスを含むカプセルを14日間にわたり強制経口投与し、筋肉、脂肪、肝臓、皮膚/脂肪及び卵黄に含まれるエトフェンプロックス濃度を測定した。結果は表3を参照。

表 3. 産卵鶏の試料中の最大残留濃度 (mg/kg)

	0.9 ppm 投与群	9.6 ppm 投与群
筋肉	—	0.013
脂肪	0.19	1.7
肝臓	0.011	0.057
皮膚/脂肪	0.071	0.43
卵黄	0.073	0.71

— : 分析せず

上記の結果に関連して、米国では家きんにおける最大飼料由来負荷 (MRBD)^{注)} を5.0 ppmと評価している。

注) 栄養バランスを考慮した最大飼料由来負荷 (Maximum Reasonably Balanced Dietary Burden : MRBD) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大濃度。飼料中残留濃度として表示される。なお、飼料については粗飼料、濃厚炭水化物飼料、濃厚タンパク質飼料を栄養学的にバランス良く給餌するシステムを採っている。

(参考 : Revisions of Feedstuffs in Table 1 of OPPTS Test Guideline 860. 1000 and Guidance on Constructing Maximum Reasonably Balanced Diets (MRBD))

(3) 飼料中の残留農薬濃度

飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令（昭和51年農林省令第35号）に定める飼料一般の成分規格等と飼料の最大給与割合等から、飼料の摂取によって家畜が暴露されうる飼料中の残留農薬濃度を算出した。

成分規格等で定められている基準値上限まで飼料中に農薬が残留している場合を仮定し、これに飼料の最大給与割合等を掛け合わせるにより飼料中の最大飼料由来負荷^{注1)}を算出したところ、乳牛において15 ppm、肉牛において9.1 ppm、産卵鶏において4.2 ppm、肉用鶏において2.5 ppmと推定された。

また、平均的飼料由来負荷^{注2)}を算出したところ、乳牛において6.7 ppm、肉牛において6.8 ppm、産卵鶏において4.2 ppm、肉用鶏において2.5 ppmと推定された。

注1) 最大飼料由来負荷 (Maximum dietary burden) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に農薬が残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大濃度。飼料中濃度として表示される。

注2) 平均的飼料由来負荷 (Mean dietary burden) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に農薬が平均的に残留していると仮定した場合に (作物残留試験から得られた残留濃度の中央値を試算に用いる)、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大濃度。飼料中濃度として表示される。

(4) 推定残留濃度

牛及び鶏について、最大及び平均的飼料由来負荷と家畜残留試験結果から、畜産物中の推定残留濃度を算出した。結果は表4-1、4-2及び表4-3を参照。

表 4-1. 畜産物中の推定残留濃度：牛 (mg/kg)

	筋肉	脂肪	肝臓	腎臓	乳
乳牛	0.13 (0.064)	5.4 (2.1)	0.21 (0.087)	0.36 (0.11)	0.38 (0.17)
肉牛	0.10 (0.064)	3.8 (2.2)	0.14 (0.089)	0.21 (0.11)	

上段：最大残留濃度 下段括弧内：平均的な残留濃度

表 4-2. 畜産物中の推定残留濃度：鶏 (mg/kg)

	筋肉	脂肪	肝臓	卵
肉用鶏	0.010 (0.010)	0.40 (0.35)	0.040 (0.035)	
産卵鶏	0.017 (0.017)	0.67 (0.59)	0.067 (0.060)	0.060 (0.043)

上段：最大残留濃度 下段括弧内：平均的な残留濃度

表 4-3. 鶏の組織中の推定最大残留濃度 (米国から提出されたデータ) (mg/kg)

	筋肉	脂肪	肝臓	皮膚/脂肪	卵黄
産卵鶏	0.007	1.04	0.06	0.395	0.40

7. ADI及びARfDの評価

食品安全基本法 (平成15年法律第48号) 第24条第1項第1号の規定に基づき、食品安全委員会あて意見を求めたエトフェンプロックスに係る食品健康影響評価において、以下のとおり評価されている。

(1) ADI

無毒性量：3.1 mg/kg 体重/day (発がん性は認められなかった。)

(動物種) 雄マウス

(投与方法) 混餌
(試験の種類) 発がん性試験
(期間) 2年間

安全係数：100

ADI：0.031 mg/kg 体重/day

他の発がん性試験において、ラットの雌で甲状腺ろ胞細胞腺腫が認められたが、遺伝毒性試験が全て陰性であったこと及びメカニズム試験の結果から、腫瘍の発生機序は遺伝毒性メカニズムとは考え難く、評価に当たり閾値を設定することは可能であると考えられた。

(2) ARfD

無毒性量：100 mg/kg 体重/day

(動物種) ウサギ
(投与方法) 強制経口
(試験の種類) 発生毒性試験
(投与期間) 妊娠6～28日

安全係数：100

ARfD：1 mg/kg 体重

8. 諸外国における状況

JMPRにおける毒性評価が行われ、2011年にADI及びARfDが設定されている。国際基準はりんご、なし等に設定されている。

米国、カナダ、EU、豪州及びニュージーランドについて調査した結果、米国において米、乳等に、EUにおいてりんご、ぶどう等に基準値が設定されている。

9. 基準値案

(1) 残留の規制対象

エトフェンプロックスとする。

植物代謝試験において10%TRR以上認められた代謝物は代謝物Ⅳ及びⅧであったが、作物残留試験において代謝物Ⅳが測定されており、一部の作物では検出が認められるもののエトフェンプロックスより残留濃度が低く、それ以外の作物では定量限界未満であること、家畜代謝試験において10%TRR以上認められた代謝物は代謝物Ⅱ、代謝物Ⅺ、代謝物Ⅷ並びに代謝物Ⅶ及び代謝物Ⅸの混合物であったが、エトフェンプロックスより残留濃度が低いことから、残留の規制対象はエトフェンプロックスのみとする。

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

(3) 暴露評価対象

エトフェンプロックスとする。

植物代謝試験において10%TRR以上認められた代謝物は代謝物Ⅳ及びⅧであったが、作物残留試験において代謝物Ⅳが測定されており、一部の作物では検出が認められるもののエトフェンプロックスより残留濃度が低く、それ以外の作物では定量限界未満であること、代謝物Ⅳの毒性はエトフェンプロックスと同等以下であること、家畜代謝試験において10%TRR以上認められた代謝物は代謝物Ⅱ、代謝物Ⅺ、代謝物Ⅷ並びに代謝物Ⅶ及び代謝物Ⅸの混合物であったが、エトフェンプロックスより残留濃度が低いことから、暴露評価対象はエトフェンプロックスのみとする。

なお、食品安全委員会は、食品健康影響評価において、農産物、畜産物及び魚介類中の暴露評価対象物質をエトフェンプロックス（親化合物のみ）としている。

(4) 暴露評価

① 長期暴露評価

1日当たり摂取する農薬等の量のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

	EDI/ADI (%) ^{注)}
国民全体 (1歳以上)	30.2
幼小児 (1～6歳)	75.6
妊婦	27.2
高齢者 (65歳以上)	33.6

注) 各食品の平均摂取量は、平成17～19年度の食品摂取頻度・摂取量調査の特別集計業務報告書による。

EDI試算法：作物残留試験成績の平均値×各食品の平均摂取量

② 短期暴露評価

各食品の短期推定摂取量(ESTI)を算出したところ、国民全体(1歳以上)及び幼小児(1～6歳)のそれぞれにおける摂取量は急性参照用量(ARfD)を超えていない^{注)}。詳細な暴露評価は別紙4-1及び4-2参照。

注) 基準値案、作物残留試験における最高残留濃度(HR)又は中央値(STMR)を用い、平成17～19年度の食品摂取頻度・摂取量調査及び平成22年度の厚生労働科学研究の結果に基づきESTIを算出した。

エトフェンプロックスの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
水稲 (玄米)	2	20.0%水和剤 +1.5%粒剤 +20.0%乳剤	150倍育苗箱散布0.5 L/箱 水面施用4 kg/10 a 1000倍散布200 L/10 a	3+1+1	7, 14, 21, 27	圃場A:*0.13/*<0.01 (*5回, 21日) (#)
					7, 14, 21, 28	圃場B:*0.13/*<0.01 (*5回, 21日) (#)
	2	20.0%水和剤 +1.5%粒剤	100倍育苗箱散布0.7 L/箱 散布6 kg/10 a	1+1	114	圃場A:<0.01/<0.01 (#)
					98	圃場B:<0.01/<0.01 (#)
	2	1.5%粒剤	散布4 kg/10 a	5	21	圃場A:0.01/<0.01 (#) 圃場B:<0.01/<0.01 (#)
	2	0.50%粉剤	散布4 kg/10 a	5	14, 21, 27	圃場A:*<0.01/*<0.01 (*5回, 14日) (#)
					14, 19, 26	圃場B:*0.01/*0.02 (*5回, 14日) (#)
	2	4.0%油剤	原液水面滴下0.5 L/10 a	3	7, 14	圃場A:<0.01/-注3) 圃場B:<0.01/-
	43				圃場A:<0.01/-	
	2	4.0%油剤	原液水面滴下0.75 L/10 a	3	42	圃場B:<0.01/-
	21				圃場A:<0.01/- (#) 圃場B:<0.01/- (#)	
	2	20.0%乳剤	2000倍散布 200 L/10 a	5	14, 21, 28	圃場A:*0.30/*<0.01 (*5回, 14日) (#)
	圃場B:*0.02/*<0.01 (*5回, 14日) (#)					
	2		1000倍散布 200 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.10/- (3回, 14日) (#)
	圃場B:0.06/- (3回, 14日) (#)					
	2		1000倍散布 144, 142 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.06/0.01
	圃場B:*0.14/<0.01 (*3回, 21日)					
	2		200倍フームスプレー散布 25 L/10 a	3	21	圃場A:0.046/- (#)
	圃場B:0.015/- (#)					
	2		1000倍散布 125 L/10 a	3	21	圃場A:0.065/-
	圃場B:0.022/-					
	2	300倍フームスプレー散布 25 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.05/-	
	圃場B:*0.12/- (*3回, 21日)					
	3	300倍散布 25 L/10 a	3	14	圃場A:0.02/-	
	圃場B:0.02/-					
	圃場C:0.01/-					
	2	10.0%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:*0.106/*0.01 (*3回, 14日) (#)
	圃場B:*0.064/*0.01 (*3回, 21日、 **3回, 14日) (#)					
	2		200倍フームスプレー散布 25 L/10 a	3	21	圃場A:0.022/- (#)
	圃場B:0.020/- (#)					
	2	8倍無人ヘリ散布 8 L/h a	3	21	圃場A:0.010/- (#)	
	23				圃場B:0.015/- (#)	
2	8倍無人ヘリ散布 0.8 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.02/-		
圃場B:*0.01/- (*3回, 21日)						
2	10.0%フロアブル	原液空中散布0.1 L/10 a	1	37	圃場A:<0.01/0.005 (#) 圃場B:<0.01/0.005 (#)	
2	10.0%フロアブル	1000倍散布 100 L/10 a	1	37	圃場A:<0.01/0.005 (#)	
圃場B:<0.01/0.005 (#)						
2		1000倍散布 150 L/10 a	4	21, 28	圃場A:0.070/- (4回, 21日)	
圃場B:0.023/- (4回, 21日)						
2	1000倍散布 150 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.023/-		
圃場B:0.03/-						

エトフェンプロックスの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
水稻 (玄米)	2	6.2%フロアブル	620倍散布 150, 146 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A: *0.09/*0.01 (*3回, 21日) 圃場B: 0.08/<0.01
	2		120倍 ^ア ームス ^ブ レーヤ ^ー 散布 25 L/10 a	3	21	圃場A: 0.016/- 圃場B: 0.009/-
	2		600倍散布 125 L/10 a	3	21	圃場A: 0.011/- 圃場B: 0.016/-
	2		620倍散布 150 L/10 a	3	14, 21	圃場A: 0.04/- 圃場B: 0.05/-
	2		120倍 ^ア ームス ^ブ レーヤ ^ー 散布 25 L/10 a	3	14, 21	圃場A: 0.02/- 圃場B: 0.02/-
	2	20.0% マイクロカプセル剤	300倍 ^ア ームス ^ブ レーヤ ^ー 散布 25 L/10 a	3	21	圃場A: 0.01/- (#) 圃場B: <0.01/- (#)
	2		1500倍散布 125 L/10 a	3	21	圃場A: 0.02/- 圃場B: 0.04/-
	2		16倍無人 ^{ヘリ} 散布 0.8 L/10 a	3	14, 21	圃場A: 0.02/- 圃場B: 0.02/-
	2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 150 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A: 0.067/0.02 圃場B: 0.06/0.02
	2		16倍空中散布 0.78, 0.8 L/10 a	1	22 27	圃場A: <0.01/- 圃場B: <0.01/-
	2		2000倍散布 100 L/10 a	1	22	圃場A: 0.010/-
	2				27	圃場B: 0.018/-
	2				27	圃場A: <0.01/-
	2		28	圃場B: <0.01/-		
	2	16倍無人 ^{ヘリ} 散布 0.8 L/10 a	1	27 28	圃場A: <0.01/- 圃場B: <0.01/-	
	2	6.2%フロアブル +0.5%粉剤	620倍散布150 L/10 a 散布4 kg/10 a	2+1	7, 14, 21	圃場A: 0.04/<0.01 圃場B: *0.02/<0.01 (*3回, 21日)
	2	20.0% マイクロカプセル剤 +0.5%粉剤	1000倍散布150 L/10 a 散布4 kg/10 a	2+1	7, 14, 21	圃場A: 0.04/<0.01 圃場B: 0.04/<0.01
	2	20.0%乳剤 +0.5%粉剤				圃場A: 0.06/<0.01 圃場B: 0.04/<0.01
	2	10.0%乳剤 +0.5%粉剤	8倍無人 ^{ヘリ} 散布0.8 L/10 a 散布4 kg/10 a	2+1	7, 14, 21	圃場A: 0.01/<0.01 圃場B: 0.01/<0.01
	小麦 (玄麦)	2	20.0%乳剤	2000倍散布 200 L/10 a	2	14, 21, 28
2		13, 21, 29				圃場B: *0.16/- (*2回, 13日) (#)
2		2000倍散布 100 L/10 a		2	7	圃場A: 0.26/- (#) 圃場B: 0.37/- (#)
2		2000倍散布 150, 120 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A: 0.14/0.01 圃場B: 0.04/0.02	
2		20.0%乳剤	2000倍散布 150 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A: 0.08/- 圃場B: 0.07/-
2		10.0%乳剤	8倍無人 ^{ヘリ} 散布 0.8 L/10 a	2	7	圃場A: 0.086/- (#) 圃場B: 0.101/- (#)
2		20.0% マイクロカプセル剤	16倍無人 ^{ヘリ} 散布 0.8 L/10 a	2	14, 21, 30	圃場A: 0.03/-
2	14, 21, 28				圃場B: *0.01/- (*2回, 21日)	
2			2	7, 14, 21	圃場A: 0.02/<0.01 圃場B: 0.02/<0.01	

エトフェンプロックスの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
大麦 (玄麦)	3	20.0%乳剤	2000倍散布 150, 139~150, 147 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A: 1.46/-
						圃場B: 0.57/-
						圃場C: 0.98/-
とうもろこし (未成熟雌穂)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 250 L/10 a	4	7, 14	圃場A: <0.01/<0.01
						圃場B: 0.06/<0.01
とうもろこし (乾燥種実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 250 L/10 a	4	7, 14	圃場A: *0.04/*0.04 (*4回, 14日)
きび (種子)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A: 1.38/-
	圃場B: 0.47/-					
あわ (種子)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A: 2.24/-
	圃場B: *1.48/- (*3回, 14日)					
	2	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	14	圃場A: 0.01/<0.01
	圃場B: <0.01/<0.01					
	2	10.0%乳剤	4倍無人へり散布 0.97~1.04, 0.82~0.83 L/10 a	2	14	圃場A: <0.01/- (#)
	圃場B: 0.034/- (#)					
	2	8倍無人へり散布 0.8 L/10 a	2	14	圃場A: <0.004/<0.01	
	圃場B: <0.004/<0.01					
	2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	14	圃場A: 0.006/<0.01
	圃場B: 0.060/0.01					
	2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 200 L/10 a	2	14	圃場A: 0.014/-
	圃場B: 0.04/-					
だいず (乾燥子実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A: 0.02/-
	圃場B: <0.01/-					
	1	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A: 0.012/-
	圃場A: 0.014/-					
	2	20.0% マイクロカプセル剤	8倍無人へり散布 0.8 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A: <0.02/-
	圃場B: <0.02/-					
	2	10%水和剤	1000倍散布 150, 200 L/10 a	2	13, 20, 27	圃場A: *<0.01/- (*2回, 27日)
	圃場B: *<0.01/- (*2回, 28日)					
	2	10%水和剤	8倍無人へり散布 0.8 L/10 a	2	13, 20, 27	圃場A: *<0.01/- (*2回, 27日)
	圃場B: *<0.01/- (*2回, 28日)					
	2	10%水和剤	1000倍散布 200, 178 L/10 a	2	14, 21, 28	圃場A: *<0.01/<0.01 (*2回, 28日)
	圃場B: *<0.01/<0.01 (*2回, 28日)					
あずき (乾燥子実)	1	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	3	14	圃場A: 0.010/0.01 (#)
	圃場A: <0.01/<0.01 (#)					
	2	10.0%乳剤	1000倍散布 90, 100 L/10 a	1	7, 14	圃場A: 0.004/-
	圃場B: 0.004/-					
2	10.0%乳剤	8倍無人へり散布 2.0, 1.9 L/10 a	1	7, 14	圃場A: 0.004/-	
圃場B: 0.004/-						
らっかせい (乾燥子実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200, 156.25 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A: *<0.01/- (*3回, 14日) (#)
	圃場B: *<0.01/- (*3回, 14日) (#)					
	2	20.0%乳剤	1000倍散布 177, 183 L/10 a	2	14	圃場A: <0.01/<0.01
	圃場B: <0.01/<0.01					

エトフェンプロックスの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ばれいしょ (塊茎)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 150, 300 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
	2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 200, 300 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:<0.01/- 圃場B:<0.01/-
	2		1000倍散布 180, 175 L/10 a	3	7	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
さといも (球茎)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 250 L/10 a	3	7, 14	圃場A:<0.005/<0.01 圃場B:<0.005/<0.01
みずいも (塊茎)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:<0.005/- 圃場B:0.007/-
	2		1000倍散布 100 L/10 a		14	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
かんしょ (塊根)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:<0.01/- 圃場B:<0.01/-
	2		1000倍散布 188, 175 L/10 a		7	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
やまのいも (塊茎)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 350, 250 L/10 a	3	7, 14	圃場A:<0.005/<0.01 圃場B:<0.005/<0.01
	2		1000倍散布 350 L/10 a	1	7, 13, 22 7, 14, 21	圃場A:*<0.005/*<0.01 (*1回, 13日) 圃場B:<0.005/<0.01
	2	10.0%乳剤	8倍無人へり散布 3.2 L/10 a	1	7, 13, 22 7, 14, 21	圃場A:*<0.005/*<0.01 (*1回, 13日) 圃場B:<0.005/<0.01
	1	0.5%粉剤	4 kg/10 a散布	2	23	圃場A:<0.03/-
やまのいも (むかご)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 300 L/10 a	3	14, 21, 30	圃場A:2.40/- 圃場B:1.58/-
	2		1000倍散布 200 L/10 a		14, 21, 28	圃場A:0.72/0.20 圃場B:0.35/0.17
てんさい (根部)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.01/<0.01 圃場B:0.10/<0.01
	2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 150, 200 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:*0.08/- (*3回, 21日) 圃場B:*0.06/- (*3回, 21日)
	2		8倍無人へり散布 1.6 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:*0.051/- (#) 圃場B:*0.01/- (*3回, 21日) (#)
	2		1000倍散布 200 L/10 a	3	14	圃場A:0.04/<0.01 圃場B:0.08/0.01
さとうきび (茎)	2	1.5%粒剤	植付前植溝処理9 kg/10 a + 散布9 kg/10 a	1+2	45	圃場A:0.005/<0.01 (#) 圃場B:0.007/<0.01 (#)
だいこん (根部)	1	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:<0.01/<0.01
	2				15, 21, 30	圃場A:0.01/0.02
	2				13, 23, 28	圃場B:*<0.01/*<0.01 (*3回, 23日)
	2				14, 21, 30	圃場A:*0.01/- (*3回, 30日) 圃場B:0.03/-
	2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 176~180, 150 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:<0.01/-
	2				7, 14, 20	圃場B:*0.02/- (*3回, 20日)
2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 200, 167 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.06/0.01 圃場B:0.05/0.02	
2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 286 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.04/- 圃場B:0.02/-	

エトフェンプロックスの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
だいこん (葉部)	1	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.54/0.14
	2				15, 21, 30	圃場A:0.07/<0.01
	2				13, 23, 28	圃場B:*0.03/*<0.01 (*3回, 23日)
	2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 176~180, 150 L/10 a	3	14, 21, 30	圃場A:0.042/- 圃場B:1.12/-
	2				7, 14, 21	圃場A:3.14/- 圃場B:*0.84/- (*3回, 20日)
	2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 200, 167 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:1.56/0.20 圃場B:1.00/0.24
	2				7, 14, 21	圃場A:7.84/- 圃場B:9.42/-
はくさい (茎葉)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200, 300~400 L/10 a	3	7, 14, 22	圃場A:0.12/<0.01 圃場B:0.18/0.01 (3回, 7日) (#)
	2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 300 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:2.32/- 圃場B:2.02/-
	2		1000倍散布 250 L/10 a	3		圃場A:1.79/*0.16 (*3回, 14日) 圃場B:*2.88/0.27 (*3回, 14日)
キャベツ (葉球)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200, 250 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:0.31/<0.01 圃場B:0.20/<0.01
	2		1000倍散布 200 L/10 a			圃場A:0.019/- 圃場B:0.394/-
	2	10.0%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3		圃場A:0.024/- 圃場B:0.192/-
	2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 150~200, 208 L/10 a	3		圃場A:0.08/- 圃場B:*0.26/- (*3回, 7日)
	2		1000倍散布 300, 250 L/10 a			圃場A:0.34/0.02 圃場B:0.12/<0.01
ブロッコリー (花蕾)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 299, 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:1.16/*<0.04 (*3回, 3日) 圃場B:*3.44/*0.07 (*3回, 3日)
畑わさび (根及び根茎)	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3 kg/10 a + 散布3 kg/10 a	1+1	7, 14, 21	圃場A:<0.2/- 圃場B:0.5/-
	2					圃場A:0.08/<0.01 圃場B:0.34/<0.01
レタス (茎葉)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.75/- 圃場B:0.05/-
	2		1000倍散布 185~300 L/10 a			圃場A:1.20/0.10 圃場B:0.50/0.03
	2		1000倍散布 200~300 L/10 a			圃場A:0.06/<0.01 圃場B:0.05/<0.01
ふき (茎)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	7, 14	圃場A:0.56/0.01 圃場B:0.51/0.01
食用ぎく (花器全体)	2	20.0%乳剤	2000倍散布 200 L/10 a	2	3, 7, 14	圃場A:3.98/- 圃場B:4.84/-
葉ねぎ (茎葉)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A:0.30/- 圃場B:1.00/-
	2					圃場A:0.062/0.02 圃場B:0.028/0.03
ねぎ (茎葉)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A:0.437/- 圃場B:0.179/0.15

エトフェンプロックスの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
みつば (茎葉)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 300, 150 L/10 a	2	14, 21, 28, 35	圃場A: 2.4/- 圃場B: *1.6/- (*2回, 20日)
	2		1000倍散布 100, 150 L/10 a		14, 21, 30	圃場A: 1.27/0.020 圃場B: 2.54/0.067
せり (茎葉)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 300 L/10 a	2	14, 21, 28, 35	圃場A: *0.3/- (*2回, 28日) (#)
	2		1000倍散布 150 L/10 a	2	21, 28, 35	圃場B: *0.7/- (*2回, 28日)
あしたば (茎葉)	2	20%乳剤	2000倍散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7, 14, 21	圃場A: <0.20/- 圃場B: <0.20/-
	2		2000倍散布 227.3, 222 L/10 a		3, 7, 14	圃場A: 0.01/<0.01 圃場B: 0.01/<0.01
トマト (果実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 300, 250 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A: *0.609/*0.02 (*2回, 3日) 圃場B: *0.264/0.01 (*2回, 3日)
	2	6%くん煙剤	20g/100m ³ くん煙	3	1, 3	圃場A: 0.11*-/ (*3回, 1日) (#) 圃場B: 0.18*-/ (*3回, 1日) (#)
ピーマン (果実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200, 300 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A: 1.710/- 圃場B: 2.660/-
	2		1000倍散布 200, 250 L/10 a			圃場A: *1.40/**0.05 (*3回, 3日、**3回, 7日) 圃場B: 2.77/0.06
なす (果実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A: 0.64/<0.01 圃場B: 0.16/<0.01
	2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 183, 300 L/10 a	3		圃場A: 0.258/- 圃場B: 0.305/-
	2		1000倍散布 297, 292 L/10 a			圃場A: 0.32/<0.01 圃場B: *0.32/<0.01 (*3回, 3日)
	2	6%くん煙剤	20g/100m ³ くん煙	3		1, 4 1, 3
きゅうり (果実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 250 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A: 0.13/0.02 圃場B: 0.18/<0.01
	2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 300, 220.4~251.8 L/10 a	3		圃場A: 0.162/- 圃場B: 0.54/-
	2		1000倍散布 200, 286 L/10 a			圃場A: 0.24/<0.01 圃場B: 0.18/<0.01
	2	6%くん煙剤	20g/100m ³ くん煙	3		1, 3
かぼちゃ (果実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A: 0.49/<0.01
					1, 4, 7	圃場B: 0.126/<0.01

エトフェンプロックスの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
すいか (果肉)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 95~200, 200 L/10 a	3	3, 7	圃場A:<0.01/- 圃場B:<0.01/-
	2		1000倍散布 204~280, 280 L/10 a			3, 7, 14
	2	20.0%乳剤	1000倍散布 221, 280 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:0.001/<0.001 ^{注2)} 圃場A:0.001/0.001 ^{注2)} 圃場B:0.001/<0.001 ^{注2)} 圃場B:0.001/<0.001 ^{注2)}
	3		1000倍散布 206~267, 233, 276 L/10 a			3, 7, 14
すいか (果実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 221 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:0.214/0.005 ^{注2)} 圃場A:0.169/0.003 ^{注2)} 圃場B:0.312/0.006 ^{注2)} 圃場B:0.392/0.009 ^{注2)}
	3		1000倍散布 200-300L/10 a			3, 7, 14
メロン (果肉)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 400 L/10 a	4	3, 7	圃場A:0.039/- (4回, 7日) (#) 圃場B:0.021/- (#)
	2		1000倍散布 279, 283, 300 L/10 a	4	3, 7, 14	圃場A:*0.03/<0.01 (*4回, 14日) 圃場B:*0.04/<0.01 (*4回, 7日)
	1	20.0%乳剤	1000倍散布 300 L/10 a	4	3, 10, 17, 24	圃場A:0.0072/-
	3		1000倍散布 260-281/10 a	4	1, 3, 7	圃場A:0.01/- 圃場B:0.01/- 圃場C:0.02/-
メロン (果実)	1	20.0%乳剤	1000倍散布 300 L/10 a	4	3, 10, 17, 24	圃場A:0.859/-
	3		1000倍散布 260-281/10 a	4	1, 3, 7	圃場A:0.48/- 圃場B:0.98/- (4回, 7日) 圃場C:0.34/-
にがうり (果実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 100~200, 202 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:0.56/- 圃場B:0.20/-
	2		1000倍散布 228, 256 L/10 a			1, 3, 7
オクラ (果実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:1.10/0.10 圃場B:0.16/0.10
しょうが (根茎)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	3	7, 14	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:0.054/0.01
	2		1000倍散布 200 L/10 a	1		圃場A:0.007/<0.01 圃場B:0.007/<0.01
	2	10.0%乳剤	8倍無人刈散布 1.6 L/10 a	1		圃場A:<0.005/<0.01 圃場B:<0.005/<0.01
葉しょうが (塊茎及び茎)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.34/- 圃場B:0.20/-
	2		1000倍散布 187, 180 L/10 a			圃場A:1.59/0.12 圃場B:0.18/*0.04 (*3回, 14日)

エトフェンプロックスの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
さやえんどう (さや)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	1, 7, 14, 21	圃場A:0.40/<0.01 圃場B:1.05/0.02
	3		1000倍散布 190, 200, 189 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A:0.53/*0.03 (*2回, 3日) 圃場B:0.79/0.02 圃場C:1.14/*0.03 (*2回, 3日)
さやいんげん (さや)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A:0.860/0.12 圃場B:0.218/0.01
	3		1000倍散布 167, 180, 179 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A:1.14/0.01 圃場B:1.21/0.02 圃場C:0.76/0.02
えだまめ (さや)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A:1.08/0.04 圃場B:1.02/0.03
	2	20.0% マイクロカプセル剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	14, 21, 28	圃場A:0.720/- (2回, 21日) 圃場B:1.150/-
	2		1000倍散布 150, 153~196 L/10 a			圃場A:0.67/0.02 圃場B:1.09/0.12
れんこん (根茎)	2	1.5%粒剤	4 kg/10 a散布	3	14, 21, 28	圃場A:<0.01/<0.01 (#) 圃場B:0.010/<0.01 (#)
	2	0.5%粉剤	4 kg/10 a散布		14, 21	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
	2				14, 21, 28	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
エンサイ (茎葉)	2	10%乳剤	1000倍散布 250 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A:0.32/- 圃場B:0.64/-
	2		1000倍散布 260 L/10 a			圃場A:0.99/<0.01 圃場B:1.56/<0.01
未成熟さやげ (さや)	2	20%乳剤	1000倍散布 250 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A:2.8/- 圃場B:1.9/-
	2		1000倍散布 200, 178 L/10 a			圃場A:2.58/0.01 圃場B:2.44/0.01
モロヘイヤ (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 220, 204 L/10 a	1	3, 7, 14	圃場A:0.65/- 圃場B:0.16/-
	2		1000倍散布 190, 180 L/10 a			圃場A:0.02/0.01 圃場B:0.10/0.04
さといも葉柄 (葉柄)	2	20%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.3/- 圃場B:0.2/-
	2		1000倍散布 300, 200 L/10 a			圃場A:0.54/0.06 圃場B:0.41/0.02
うど (軟化茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 300 L/10 a	2	195, 202	圃場A:<0.02/- (2回, 195日) 圃場B:<0.02/- (2回, 199日)
	2		1000倍散布 200 L/10 a		199, 206	圃場A:<0.01/- 圃場B:<0.01/-
	2				42	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
	2	10%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a		45	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
ほうきぎ (果実全体)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 300 L/10 a	2	14, 28, 35	圃場A:5.44/- (2回, 28日) 圃場B:4.39/- (2回, 28日)
	2		1000倍散布 200, 250, 160~200 L/10 a		28, 35, 42	圃場A:*1.76/*0.10 (*2回, 28日) 圃場B:*0.84/*0.05 (*2回, 27日)
	2				27, 35, 42	
	2					

エトフェンプロックスの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
温州みかん (果肉)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 500, 800 L/10 a	3	14, 20, 28	圃場A:0.03/<0.01
					14, 21, 28	圃場B:*0.02/<0.01 (*3回, 21日)
	2	20.0%乳剤	1000倍散布 667, 567 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:0.01/-
						圃場B:0.06/-
4	20.0%乳剤	1000倍散布 500, 600, 667, 600 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:0.03/-	
					圃場B:<0.01/-	
					圃場C:0.02/-	
					圃場D:0.04/-	
温州みかん (果皮)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 500, 800 L/10 a	3	14, 20, 28	圃場A:6.90/0.52
					14, 21, 28	圃場B:11.40/0.69
	2	20.0%乳剤	1000倍散布 600, 500 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.05/0.02
						圃場B:0.02*/<0.01 (*3回, 21日)
	2	20.0%乳剤	1000倍散布 600, 500 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:4.06/1.12* (*3回, 28日)
					圃場B:3.11*/0.93 (*3回, 21日)	
2	20.0%乳剤	1000倍散布 667, 567 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:9.06/-	
					圃場B:*15.6/- (*3回, 7日)	
	4	20.0%乳剤	1000倍散布 500, 600, 667, 600 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:13.4/-
					圃場B:8.34/-	
					圃場C:*15.8/- (*3回, 3日)	
					圃場D:15.6/-	
温州みかん (果実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 667, 567 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:1.55/-
						圃場B:*3.31/- (*3回, 7日)
	4	20.0%乳剤	1000倍散布 500, 600, 667, 600 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:2.57/-
					圃場B:1.59/-	
					圃場C:*2.39/- (*3回, 3日)	
					圃場D:*2.92/- (*3回, 3日)	
なつみかん (果実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 600, 500 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:*1.06/*0.29 (*3回, 28日)
						圃場B:*1.01/0.29 (*3回, 21日)
	3	20.0%乳剤	1000倍散布 550~570, 600, 583 L/10 a	3	1, 3, 7, 14, 21, 28	圃場A:0.76/-
						圃場B:*1.40/- (*3回, 3日)
						圃場C:*0.69/- (*3回, 7日)
すだち (果実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 500 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:2.70/-
					15, 21, 28	圃場A:*1.90/*0.02 (*3回, 15日)
	1	20.0%乳剤	1000倍散布 500 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:3.28/-
1	1000倍散布 500 L/10 a		3	1, 3, 7	圃場A:2.45/-	
かぼす (果実)	1	20.0%乳剤	1000倍散布 640 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.98/-
			1000倍散布 615 L/10 a			圃場A:*2.89/**0.04 (*3回, 21日、**3回, 14日)
	1	20.0%乳剤	1000倍散布 556 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:3.10/-
ゆず (果実)	1	20.0%乳剤	1000倍散布 522 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:*4.22/- (*3回, 3日)
りんご (果実)	2	20.0%水和剤	1000倍散布 600, 500 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.39/0.25
						圃場B:0.80/*0.22 (*3回, 21日)
	4	20.0%水和剤	1000倍散布 450, 444, 450, 417 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:1.92/-
						圃場B:1.89/-
						圃場C:2.34/-
						圃場D:0.82/-

エトフェンプロックスの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
なし (果実)	2	20.0%水和剤	1000倍散布 400, 500 L/10 a	3	14, 21, 27, 41	圃場A:0.72/0.20
					14, 21, 28, 42	圃場B:0.62/0.14
もも (果肉)	2	20.0%水和剤	1000倍散布 400 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.02/*0.02 (*3回, 21日)
					7, 14, 21, 28	圃場B:*0.02/0.01 (*3回, 21日)
もも (果皮)	2	20.0%水和剤	1000倍散布 400 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:*7.22/1.17 (*3回, 21日)
					7, 14, 21, 28	圃場B:7.44/0.75
もも (果実)	2	20.0%水和剤	1000倍散布 400 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:*1.09 ^{注3)} /0.18 ^{注3)} (*3回, 21日)
					7, 14, 21, 28	圃場B:1.12 ^{注3)} /0.12 ^{注3)}
かき (果実)	2	20.0%水和剤	1000倍散布 500 L/10 a	3	21, 28, 42	圃場A:*0.72/*0.10 (*3回, 28日)
					20, 27, 42	圃場B:*0.85/*0.12 (*3回, 27日)
マンゴー (果実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 400, 300 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:2.00/-
	2		1000倍散布 360, 500 L/10 a			圃場B:1.51/-
くり (果実)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 500, 400 L/10 a	4	8, 14, 20	圃場A:*<0.01/*<0.01 (*4回, 8日) (#)
						8, 14, 22
茶 (覆下) (荒茶)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A:1.62/0.12 (2回, 21日) (#)
						圃場B:3.98/0.16 (2回, 21日) (#)
茶 (覆下) (浸出液)	2	20.0%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A:<0.02/- (2回, 21日) (#)
						圃場B:0.02/- (2回, 21日) (#)
畑わさび (花及び花茎)	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3 kg/10 a + 散布3 kg/10 a	1+1	7, 14, 21	圃場A:0.2/-
	2					圃場B:<0.1/-
畑わさび (葉(葉柄含))	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3 kg/10 a + 散布3 kg/10 a	1+1	7, 14, 21	圃場A:0.15/0.04
	2					圃場B:0.09/0.04
畑わさび (葉(葉柄含))	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3 kg/10 a + 散布3 kg/10 a	1+1	7, 14, 21	圃場A:0.2/-
	2					圃場B:0.2/-
畑わさび (葉(葉柄含))	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3 kg/10 a + 散布3 kg/10 a	1+1	7, 14, 21	圃場A:0.18/0.07
						圃場B:0.34/0.10

- : 分析せず

(#)印で示した作物残留試験成績は、登録又は申請された適用の範囲内で行われていないことを示す。また、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

今回、新たに提出された作物残留試験成績に網を付けて示している。

注1) 当該農薬の登録又は申請された適用の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験 (いわゆる最大使用条件下の作物残留試験) を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留濃度の最大値を示した。

代謝物IVの残留濃度は、エトフェンプロックス濃度に換算した値で示した。

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留濃度が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留濃度が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について () 内に記載した。

注2) これらの試験は同一圃場で大玉(上段)、小玉(下段)が栽培されている。圃場の代表値は、高い残留濃度とした。

注3) 果肉及び果皮の重量割合が不明のため、過去の作物残留試験等のデータから、それぞれの割合を果肉77%及び果皮15%として果実全体の残留濃度を算出した。

エトフェンプロックスの作物残留試験一覧表 (韓国)

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留濃度 (mg/kg) ^{注1)}
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
とうがらし (施設 (実))	1	10%水和剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	1, 3, 5, 7	圃場A:0.79 (3回, 5日) (#) ^{注2)}
	1	8%フロアブル	1000倍散布 250 L/10 a	2	1, 3, 5, 7	圃場A:1.04
	1	8%フロアブル	1000倍散布 250 L/10 a	3	1, 3, 5, 7	圃場A:1.33 (3回, 7日) (#)
まくわうり (果実)	3	8%液剤	1000倍散布 200 L/10 a	2	3	圃場A:0.042 圃場B:0.052 圃場C:0.040

注1) 当該農薬の登録又は申請された適用の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験 (いわゆる最大使用条件下の作物残留試験) を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留濃度の最大値を示した。

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留濃度が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留濃度が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について () 内に記載した。

注2) (#)印で示した作物残留試験成績は、登録又は申請された適用の範囲内で行われていないことを示す。また、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

食品名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	国/地域 基準値 ppm	
米(玄米をいう。)	0.3	0.5	○			0.06~0.14(#)(n=4)
小麦	0.3	0.5	○・申			0.022~0.16(#)(n=6)
大麦	3	0.5	申			0.57,0.98,1.46 (大麦参照)
ライ麦	3	0.5	申			<0.01,0.06(¥)
とうもろこし	0.3	0.3	○	0.05		<0.01,0.06(¥)
その他の穀類	5	5	○			1.21~2.24(n=4)(あわ)
大豆	0.1	0.2	○	0.05		<0.01~0.060(n=7)
小豆類	0.05	0.05	○	0.05		
えんどう	0.01	0.05	○	0.05		(らっかせい参照)
そら豆	0.05	0.05	○	0.05		
らっかせい	0.01	0.05	○			<0.01(#)(n=4)
その他の豆類	0.05	0.05	○	0.05		
ばれいしょ	0.05	0.05	○			<0.01,<0.01(¥)
さといも類(やつがしらを含む。)	0.02	0.03	○			<0.005~<0.01(n=4)(みずいも)
かんしょ	0.01	0.03	○			<0.01(n=4)
やまいも(長いもをいう。)	0.02	0.02	○			<0.005,<0.005(¥)(やまのいも)
てんさい	0.3	0.3	○			0.01,0.10(¥)
さとうきび	0.03	0.03	○			0.005,0.007(#)(¥)
だいこん類(ラディッシュを含む。)の根	0.2	0.2	○			<0.01~0.06(n=6)
だいこん類(ラディッシュを含む。)の葉	20	5	○・申			0.84~9.42(n=6)
はくさい	7	5	○			1.79~2.88(n=4)
キャベツ	0.9	1	○			0.019~0.394(n=4)
芽キャベツ		2				
ブロッコリー	10	10	○			1.16,3.44(¥)
その他のあぶらな科野菜	1	1	○			0.08~0.5(n=4)(畑わさび(根及び根茎))
レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)	3	2	○			0.05~1.20(n=6)
その他のきく科野菜	10	10	○			3.98,4.84(¥)(食用ぎく)
ねぎ(リーキを含む。)	2	2	○			0.028~1.00(n=6)
みつば	6	5	○			1.27~2.54(n=4)
その他のせり科野菜	2	2	○			0.02~0.7(#)(n=4)(せり)
トマト	2	2	○			0.264,0.609(¥)
ピーマン	7	5	○			1.40~2.77(n=4)
なす	2	2	○			0.16,0.64(¥)
その他のなす科野菜	2	2		2.0	韓国	【0.79~1.33(#)(n=3)(とうがらし)(韓国)】
きゅうり(ガーキンを含む。)	1	1	○			0.162~0.54(n=4)
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	1	1	○			0.126,0.49(¥)
すいか		0.03				
すいか(果皮を含む。)	2		○			0.12~0.68(n=5)
メロン類果実		0.2				
メロン類果実(果皮を含む。)	2		○			0.34~0.98(n=4)
まくわうり(果皮を含む。)	0.2		IT			【0.040,0.042,0.052(韓国)】
その他のうり科野菜	1	1	○			0.14~0.56(n=4)(にがうり)
オクラ	3	3	○			0.16,1.10(¥)
しょうが	4	3	○			0.18~1.59(n=4)(葉しょうが)
未成熟えんどう	3	2	○			0.40~1.14(n=5)
未成熟いんげん	4	3	○			0.76,1.14,1.21
えだまめ	3	3	○			1.02,1.08(¥)
その他の野菜	15	10	○			0.84~5.44(n=4)(ほうきぎ)

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	国/地域 基準値 ppm	
みかん		0.2				
みかん(外果皮を含む。)	10		○・申			(すだち、かぼす、ゆず参照)
なつみかんの果実全体	10	3	○・申			(すだち、かぼす、ゆず参照)
レモン	10	5	○・申			(すだち、かぼす、ゆず参照)
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	10	5	○・申			(すだち、かぼす、ゆず参照)
グレープフルーツ	10	5	○・申			(すだち、かぼす、ゆず参照)
ライム	10	5	○・申			(すだち、かぼす、ゆず参照)
その他のかんきつ類果実	10	5	○・申			2.45,3.28(すだち)、3.10(かぼす)、4.22(ゆず)
りんご	5	2	○・申	0.6		0.39~2.34(n=6)
日本なし	2	2	○	0.6		0.62,0.72(¥)
西洋なし	2	2	○	0.6		(日本なし参照)
もも		0.1	○			
もも(果皮及び種子を含む。)	3		○	0.6		1.09,1.12(¥)
ネクタリン	0.6	0.6		0.6		
ぶどう	4	4		4		
かき	2	2	○			0.72,0.85(¥)
マンゴー	5	5	○			0.65~2.24(n=4)
なたね	0.01	0.01		0.01		
くり	0.05	0.05	○			<0.01(#),<0.01(#)(¥)
茶	10	10	○			1.62,3.98(#)(¥)(荒茶)
その他のスパイス	40	20	○・申			8.34~15.8(n=6)(みかんの果皮)
その他のハーブ	0.7	0.7	○			0.18~0.34(n=4)(畑わさび(葉))
牛の筋肉	0.2	0.2		0.5		推:0.13
豚の筋肉	0.2	0.2		0.5		(牛の筋肉参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉	0.2	0.2		0.5		(牛の筋肉参照)
牛の脂肪	6	6		0.5		推:5.4
豚の脂肪	6	6		0.5		(牛の脂肪参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	6	6		0.5		(牛の脂肪参照)
牛の肝臓	0.3	0.3		0.05		推:0.21
豚の肝臓	0.3	0.3		0.05		(牛の肝臓参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.3	0.3		0.05		(牛の肝臓参照)
牛の腎臓	0.4	0.4		0.05		推:0.36
豚の腎臓	0.4	0.4		0.05		(牛の腎臓参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.4	0.4		0.05		(牛の腎臓参照)
牛の食用部分	0.4	0.4		0.05		(牛の腎臓参照)
豚の食用部分	0.4	0.4		0.05		(牛の腎臓参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.4	0.4		0.05		(牛の腎臓参照)
乳	0.4	0.4		0.02		推:0.38

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	国/地域 基準値 ppm	
鶏の筋肉 その他の家さんの筋肉	0.02 0.02	0.02 0.02		0.01 0.01		推:0.017 (鶏の筋肉参照)
鶏の脂肪 その他の家さんの脂肪	1 1	1 1		0.01 0.01	1.0: 米国 1.0: 米国	【推:1.04(米国)】 【鶏の脂肪参照】
鶏の肝臓 その他の家さんの肝臓	0.07 0.07	0.07 0.07		0.01 0.01		推:0.067 (鶏の肝臓参照)
鶏の腎臓 その他の家さんの腎臓	0.07 0.07	0.07 0.07		0.01 0.01		(鶏の肝臓参照) (鶏の肝臓参照)
鶏の食用部分 その他の家さんの食用部分	0.07 0.07	0.07 0.07		0.01 0.01		(鶏の肝臓参照) (鶏の肝臓参照)
鶏の卵 その他の家さんの卵	0.4 0.4	0.4 0.4		0.01 0.01	0.40: 米国 0.40: 米国	【推:0.40(卵黄)(米国)】 【鶏の卵参照】
魚介類	0.8	0.8				推:0.77

本基準(暫定基準以外の基準)を見直す基準値案については、太枠線で囲んで示した。

食品区分を別途新設すること等に伴い、食品区分を削除したものについては、斜線で示した。

「登録有無」の欄に「○」の記載があるものは、国内で農薬等としての使用が認められていることを示している。

「登録有無」の欄に「申」の記載があるものは、国内で農薬の登録申請等の基準値設定依頼がなされたものであることを示している。

「登録有無」の欄に「IT」の記載があるものは、インポートライセンス申請に基づく基準値設定依頼がなされたものであることを示している。

(#)これらの作物残留試験は、登録又は申請の適用の範囲内で試験が行われていない。

(¥)作物残留試験結果の最大値を基準値設定の根拠とした。

「作物残留試験」欄に「推」の記載のあるものは、推定残留濃度であることを示している。

エトフェンプロックスの推定摂取量 (単位: µg/人/day)

食品名	基準値案 (ppm)	暴露評価に 用いた数値 (ppm)	国民全体 (1歳以上) TMDI	国民全体 (1歳以上) EDI	幼児 (1~6歳) TMDI	幼児 (1~6歳) EDI	妊婦 TMDI	妊婦 EDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	高齢者 (65歳以上) EDI
米(玄米をいう。)	0.3	0.09	49.3	14.8	25.7	7.7	31.6	9.5	54.1	16.2
小麦	0.3	0.085	17.9	5.1	13.3	3.8	20.7	5.9	15.0	4.2
大麦	3	1.00333	15.9	5.3	13.2	4.4	26.4	8.8	13.2	4.4
ライ麦	3	1.00333	0.3	0.1	0.3	0.1	1.5	0.5	0.3	0.1
とうもろこし	0.3	0.035	1.4	0.2	1.6	0.2	1.8	0.2	1.3	0.2
その他の穀類	5	1.6725	1.0	0.3	0.5	0.2	0.5	0.2	1.5	0.5
大豆	0.1	0.023	3.9	0.9	2.0	0.5	3.1	0.7	4.6	1.1
小豆類	0.05	0.05	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
えんどう	0.01	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そら豆	0.05	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
らっかせい	0.01	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の豆類	0.05	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ばれいしょ	0.05	0.01	1.9	0.4	1.7	0.3	2.1	0.4	1.8	0.4
さといも類(やつがしらを含む。)	0.02	0.008	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1
かんしょ	0.01	0.01	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
やまいも(長いもをいう。)	0.02	0.005	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
てんさい	0.3	0.055	9.8	1.8	8.3	1.5	12.3	2.3	10.0	1.8
さとうきび	0.03	0.006	2.9	0.6	2.5	0.5	3.7	0.7	3.0	0.6
だいこん類(ラディッシュを含む。)	0.2	0.033	6.6	1.1	2.3	0.4	4.1	0.7	9.1	1.5
だいこん類(ラディッシュを含む。)	20	3.967	34.0	6.7	12.0	2.4	62.0	12.3	56.0	11.1
はくさい	7	2.25	123.9	39.8	35.7	11.5	116.2	37.4	151.2	48.6
キャバツ	0.9	0.23075	21.7	5.6	10.4	2.7	17.1	4.4	21.4	5.5
ブロッコリー	10	2.3	52.0	12.0	33.0	7.6	55.0	12.7	57.0	13.1
その他のあぶらな科野菜	1	0.28	3.4	1.0	0.6	0.2	0.8	0.2	4.8	1.3
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。)	3	0.435	28.8	4.2	13.2	1.9	34.2	5.0	27.6	4.0
その他のさく科野菜	10	4.41	15.0	6.6	1.0	0.4	6.0	2.6	26.0	11.5
ねぎ(リーキを含む。)	2	0.33433	18.8	3.1	7.4	1.2	13.6	2.3	21.4	3.6
みつば	6	1.9525	2.4	0.8	0.6	0.2	0.6	0.2	3.0	1.0
その他のせり科野菜	2	0.31	0.4	0.1	0.2	0.0	0.6	0.1	0.6	0.1
トマト	2	0.4365	64.2	14.0	38.0	8.3	64.0	14.0	73.2	16.0
ピーマン	7	2.135	33.6	10.2	15.4	4.7	53.2	16.2	34.3	10.5
なす	2	0.4	24.0	4.8	4.2	0.8	20.0	4.0	34.2	6.8
その他のなす科野菜	2	1.05333	2.2	1.2	0.2	0.1	2.4	1.3	2.4	1.3
きゅうり(ガーキンを含む。)	1	0.2805	20.7	5.8	9.6	2.7	14.2	4.0	25.6	7.2
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	1	0.308	9.3	2.9	3.7	1.1	7.9	2.4	13.0	4.0
すいか(果皮を含む。)	2	0.3332	15.2	2.5	11.0	1.8	28.8	4.8	22.6	3.8
メロン類果実(果皮を含む。)	2	0.66475	7.0	2.3	5.4	1.8	8.8	2.9	8.4	2.8
まくわうり(果皮を含む。)	0.2	0.045	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
その他のうり科野菜	1	0.283	2.7	0.8	1.2	0.3	0.6	0.2	3.4	1.0
オクラ	3	0.630	4.2	0.9	3.3	0.7	4.2	0.9	5.1	1.1
しょうが	4	0.578	6.0	0.9	1.2	0.2	4.4	0.6	6.8	1.0
未成熟えんどう	3	0.782	4.8	1.3	1.5	0.4	0.6	0.2	7.2	1.9
未成熟いんげん	4	1.04	9.6	2.5	4.4	1.1	0.4	0.1	12.8	3.3
えだまめ	3	1.05	5.1	1.8	3.0	1.1	1.8	0.6	8.1	2.8
その他の野菜	15	3.11	201.0	41.6	94.5	19.6	151.5	31.4	211.5	43.8
みかん(外果皮を含む。)	10	3.26	178.0	58.1	164.0	53.5	6.0	2.0	262.0	85.5
なつみかんの果実全体	10	3.263	13.0	4.2	7.0	2.3	48.0	15.7	21.0	6.9
レモン	10	3.26	5.0	1.6	1.0	0.3	2.0	0.7	6.0	2.0
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	10	3.26	70.0	22.8	146.0	47.6	125.0	40.8	42.0	13.7
グレープフルーツ	10	3.26	42.0	13.7	23.0	7.5	89.0	29.0	35.0	11.4
ライム	10	3.26	1.0	0.3	1.0	0.3	1.0	0.3	1.0	0.3
その他のかんきつ類果実	10	3.26	59.0	19.2	27.0	8.8	25.0	8.2	95.0	31.0
りんご	5	1.36	121.0	33.0	154.5	42.1	94.0	25.6	162.0	44.1
日本なし	2	0.670	12.8	4.3	6.8	2.3	18.2	6.1	15.6	5.2
西洋なし	2	0.670	1.2	0.4	0.4	0.1	0.2	0.1	1.0	0.3
もも(果皮及び種子を含む。)	3	1.11	10.2	3.8	11.1	4.1	15.9	5.9	13.2	4.9
ネクタリン	0.6	0.158	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
ぶどう	4	0.730	34.8	6.4	32.8	6.0	80.8	14.7	36.0	6.6
かき	2	0.785	19.8	7.8	3.4	1.3	7.8	3.1	36.4	14.3
マンゴー	5	1.60	1.5	0.5	1.5	0.5	0.5	0.2	1.5	0.5
なたね	0.01	0.010	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0
くり	0.05	0.010	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
茶	10	0.020	66.0	0.1	10.0	0.0	37.0	0.1	94.0	0.2
その他のスパイス	40	13.0	4.0	1.3	4.0	1.3	4.0	1.3	8.0	2.6
その他のハーブ	0.7	0.23	0.6	0.2	0.2	0.1	0.1	0.0	1.0	0.3

エトフェンプロックスの推定摂取量 (単位: µg/人/day)

食品名	基準値案 (ppm)	暴露評価に 用いた数値 (ppm)	国民全体 (1歳以上) TMDI	国民全体 (1歳以上) EDI	幼児 (1~6歳) TMDI	幼児 (1~6歳) EDI	妊婦 TMDI	妊婦 EDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	高齢者 (65歳以上) EDI
陸棲哺乳類の肉類	6	筋肉 0.064 脂肪 2.2	346.2	28.3	258.6	21.2	386.4	31.6	246.0	20.1
陸棲哺乳類の食用部分 (肉類除く)	0.4	0.110	0.6	0.2	0.3	0.1	1.9	0.5	0.4	0.1
陸棲哺乳類の乳類	0.4	0.170	105.6	44.9	132.8	56.4	145.8	62.0	86.4	36.7
家さんの肉類	1	1.00	21.4	21.4	15.3	15.3	22.7	22.7	16.1	16.1
家さんの卵類	0.4	0.400	16.6	16.6	13.3	13.3	19.3	19.3	15.2	15.2
魚介類	0.8	0.240	74.5	22.3	31.7	9.5	42.6	12.8	91.8	27.6
計			2026.4	515.6	1428.2	386.6	1950.4	493.3	2238.8	583.9
ADI比 (%)			118.6	30.2	279.2	75.6	107.5	27.2	128.7	33.6

TMDI: 理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

TMDI試算法: 基準値案×各食品の平均摂取量

EDI: 推定1日摂取量 (Estimated Daily Intake)

EDI試算法: 作物残留試験成績の平均値×各食品の平均摂取量

国際基準を参照したものについては、JMPPRの評価に用いられた残留試験データを用いてEDI試算をした。

茶については、浸出液における作物残留試験結果を用いてEDI試算をした。

「魚介類」については、摂取する魚介類を内水面 (湖や河川) 魚介類、海産魚介類及び遠洋魚介類に分け、それぞれ海産魚介類での推定残留濃度を内水面魚介類の1/5、遠洋魚介類での推定残留濃度を0として算出した係数 (0.31) を推定残留濃度に乘じた値を用いてEDI試算した。

「陸棲哺乳類の肉類」については、TMDI試算では、牛・豚・その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉、脂肪の摂取量にその範囲の基準値案で最も高い値を乗じた。また、EDI試算では、畜産物中の平均的な残留農薬濃度を用い、摂取量の筋肉及び脂肪の比率をそれぞれ80%、20%として試算した。

エトフェンプロックスの推定摂取量（短期）：国民全体(1歳以上)

食品名 (基準値設定対象)	食品名 (ESTI推定対象)	基準値案 (ppm)	評価に用いた 数値 (ppm)	ESTI ($\mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/day)	ESTI/ARFD (%)
米(玄米)	米	0.3	○ 0.08	0.5	0
小麦	小麦	0.3	○ 0.075	0.1	0
大麦	大麦	3	○ 0.98	0.8	0
	麦茶	3	○ 0.98	0.8	0
とうもろこし	スイートコーン	0.3	0.3	3.4	0
大豆	大豆	0.1	○ 0.014	0.0	0
小豆類	いんげん	0.05	○ 0.05	0.1	0
らっかせい	らっかせい	0.01	○ 0.01	0.0	0
ばれいしょ	ばれいしょ	0.05	0.05	0.5	0
さといも類(やつがしらを含む。)	さといも	0.02	○ 0.01	0.1	0
かんしょ	かんしょ	0.01	○ 0.01	0.1	0
やまいも(長いもをいう。)	やまいも	0.02	0.02	0.2	0
だいこん類(ラディッシュを含む。)	だいこんの根	0.2	○ 0.06	0.7	0
だいこん類(ラディッシュを含む。)	だいこんの葉	20	○ 9.42	77.8	8
はくさい	はくさい	7	○ 2.88	37.3	4
キャベツ	キャベツ	0.9	○ 0.394	3.8	0
ブロッコリー	ブロッコリー	10	10	60.1	6
その他のあぶらな科野菜	たかな	1	○ 0.5	3.9	0
	菜花	1	○ 0.5	1.4	0
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。)	レタス類	3	○ 1.2	6.8	1
ねぎ(リーキを含む。)	ねぎ	2	○ 1	3.8	0
みつば	みつば	6	○ 2.54	2.1	0
その他のせり科野菜	せり	2	○ 0.7	1.1	0
トマト	トマト	2	2	21.9	2
ピーマン	ピーマン	7	○ 2.77	7.1	1
なす	なす	2	2	12.9	1
その他のなす科野菜	とうがらし(生)	2	2	3.2	0
	ししとう	2	2	2.0	0
きゅうり(ガーキンを含む。)	きゅうり	1	○ 0.54	3.4	0
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	かぼちゃ	1	1	9.8	1
	ズッキーニ	1	1	7.2	1
すいか(果皮を含む。)	すいか	2	○ 0.68	22.4	2
メロン類果実(果皮を含む。)	メロン	2	○ 0.98	16.7	2
その他のうり科野菜	とうがん	1	○ 0.56	9.5	1
	にがうり	1	○ 0.56	4.5	0
オクラ	オクラ	3	3	4.4	0
しょうが	しょうが	4	○ 1.59	1.5	0
未成熟えんどう	未成熟えんどう(さや)	3	○ 1.14	1.9	0
	未成熟えんどう(豆)	3	○ 1.14	1.9	0
未成熟いんげん	未成熟いんげん	4	4	7.8	1
えだまめ	えだまめ	3	3	7.6	1
その他の野菜	ずいき	15	○ 5.44	55.1	6
	もやし	15	○ 5.44	12.5	1
	れんこん	15	○ 5.44	33.8	3
	そら豆(生)	15	○ 5.44	16.0	2
みかん(外果皮を含む。)	みかん	10	○ 4.22	39.4	4
なつみかんの果実全体	なつみかん	10	○ 4.22	52.4	5
レモン	レモン	10	○ 4.22	8.8	1
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	オレンジ	10	○ 4.22	39.7	4
	オレンジ果汁	10	○ 3.19	31.7	3
グレープフルーツ	グレープフルーツ	10	○ 4.22	72.6	7
その他のかんきつ類果実	きんかん	10	○ 4.22	10.1	1
	ぼんかん	10	○ 4.22	44.4	4
	ゆず	10	○ 4.22	6.7	1
	すだち	10	○ 4.22	6.6	1
りんご	りんご	5	○ 2.34	33.4	3
	りんご果汁	5	○ 1.355	14.3	1
日本なし	日本なし	2	2	30.3	3
西洋なし	西洋なし	2	2	28.1	3
もも(果皮及び種子を含む。)	もも	3	3	40.7	4
ぶどう	ぶどう	4	○ 2.6	35.0	4
かき	かき	2	2	28.6	3

エトフェンプロックスの推定摂取量（短期）：国民全体(1歳以上)

食品名 (基準値設定対象)	食品名 (ESTI推定対象)	基準値案 (ppm)	評価に用いた 数値 (ppm)	ESTI ($\mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/day)	ESTI/ARFD (%)
マンゴー	マンゴー	5	○ 2.24	30.2	3
くり	くり	0.05	○ 0.01	0.0	0
茶	緑茶類	10	○ 0.02	0.0	0

ESTI：短期推定摂取量 (Estimated Short-Term Intake)

ESTI/ARFD(%)の値は、有効数字1桁（値が100を超える場合は有効数字2桁）とし四捨五入して算出した。

○：作物残留試験における最高残留濃度（HR）又は中央値（STMR）を用いて短期摂取量を推計した。

○を付していない食品については、基準値案の値又は暴露評価対象物質の残留濃度から推定される基準値に相当する値を使用した。

国際基準を参照したものについては、JMPRの評価に用いられた残留試験データを用いてESTI試算をした。

茶については、浸出液における作物残留試験結果を用いて試算をした。

エトフェンプロックスの推定摂取量（短期）：幼小児(1～6歳)

食品名 (基準値設定対象)	食品名 (ESTI推定対象)	基準値案 (ppm)	評価に用いた 数値 (ppm)	ESTI ($\mu\text{g}/\text{kg}$ 体重 /day)	ESTI/ARfD (%)
米(玄米)	米	0.3	○ 0.08	0.9	0
小麦	小麦	0.3	○ 0.075	0.2	0
大麦	大麦	3	○ 0.98	0.7	0
	麦茶	3	○ 0.98	1.7	0
とうもろこし	スイートコーン	0.3	0.3	7.2	1
大豆	大豆	0.1	○ 0.014	0.0	0
らっかせい	らっかせい	0.01	○ 0.01	0.0	0
ばれいしょ	ばれいしょ	0.05	○ 0.05	1.1	0
さといも類(やつがしらを含む。)	さといも	0.02	○ 0.01	0.1	0
かんしょ	かんしょ	0.01	○ 0.01	0.3	0
やまいも(長いもをいう。)	やまいも	0.02	0.02	0.3	0
だいこん類(ラディッシュを含む。)	だいこんの根	0.2	○ 0.06	1.3	0
はくさい	はくさい	7	○ 2.88	45.1	5
キャベツ	キャベツ	0.9	○ 0.394	6.2	1
ブロッコリー	ブロッコリー	10	10	144.1	10
レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)	レタス類	3	○ 1.2	11.8	1
ねぎ(リーキを含む。)	ねぎ	2	○ 1	6.5	1
トマト	トマト	2	2	54.3	5
ピーマン	ピーマン	7	○ 2.77	18.1	2
なす	なす	2	2	31.3	3
きゅうり(ガーキンを含む。)	きゅうり	1	○ 0.54	7.9	1
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	かぼちゃ	1	1	16.0	2
すいか(果皮を含む。)	すいか	2	○ 0.68	58.9	6
メロン類果実(果皮を含む。)	メロン	2	○ 0.98	28.7	3
オクラ	オクラ	3	3	13.0	1
しょうが	しょうが	4	○ 1.59	2.4	0
未成熟えんどう	未成熟えんどう(さや)	3	○ 1.14	1.4	0
	未成熟えんどう(豆)	3	○ 1.14	2.0	0
未成熟いんげん	未成熟いんげん	4	4	16.1	2
えだまめ	えだまめ	3	3	8.4	1
その他の野菜	もやし	15	○ 5.44	22.8	2
	れんこん	15	○ 5.44	55.9	6
みかん(外果皮を含む。)	みかん	10	○ 4.22	115.5	10
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	オレンジ	10	○ 4.22	113.7	10
	オレンジ果汁	10	○ 3.19	56.9	6
りんご	りんご	5	○ 2.34	75.1	8
	りんご果汁	5	○ 1.355	45.7	5
日本なし	日本なし	2	2	57.5	6
もも(果皮及び種子を含む。)	もも	3	3	127.3	10
ぶどう	ぶどう	4	○ 2.6	79.6	8
かき	かき	2	2	41.8	4
茶	緑茶類	10	○ 0.02	0.0	0

ESTI：短期推定摂取量 (Estimated Short-Term Intake)

ESTI/ARfD(%)の値は、有効数字1桁(値が100を超える場合は有効数字2桁)とし四捨五入して算出した。

○：作物残留試験における最高残留濃度(HR)又は中央値(STMR)を用いて短期摂取量を推計した。

○を付していない食品については、基準値案の値又は暴露評価対象物質の残留濃度から推定される基準値に相当する値を使用した。

国際基準を参照したものについては、JMPRの評価に用いられた残留試験データを用いてESTI試算をした。

茶については、浸出液における作物残留試験結果を用いて試算をした。

(参考)

これまでの経緯

昭和62年	4月13日	初回農薬登録
平成17年	11月29日	残留農薬基準告示
平成21年	2月4日	農林水産省から厚生労働省へ基準値設定依頼（魚介類、畜産物）
平成21年	2月17日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成21年	11月19日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成22年	9月14日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成23年	3月15日	残留農薬基準告示
平成25年	3月29日	農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：みつば、マンゴー）
平成25年	6月11日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成25年	8月5日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成26年	1月17日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成26年	7月31日	薬事・食品衛生審議会から答申
平成26年	10月30日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成27年	3月26日	残留農薬基準告示
平成26年	11月21日	農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：きび、ブロッコリー、ほうきぎ）
平成27年	1月8日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成27年	6月9日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成27年	11月4日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成28年	5月27日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成29年	2月23日	残留農薬基準告示
平成28年	8月25日	農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：あわ、さやいんげん、葉しょうが）
平成29年	1月24日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請

平成29年	4月25日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成29年10月12日		薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成30年	7月3日	残留農薬基準告示
平成30年	1月25日	農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：食用ぎく）
平成30年	6月21日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成30年	7月24日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成30年11月13日		薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
令和元年	8月5日	残留農薬基準告示
令和2年	2月20日	インポートトレランス申請（まくわうり）
令和2年12月18日		農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：麦類及びかんきつ）
令和3年	8月25日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
令和3年11月16日		食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
令和4年	4月19日	薬事・食品衛生審議会へ諮問
令和4年	4月28日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

● 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

- 穂山 浩 学校法人星薬科大学薬学部薬品分析化学研究室教授
- 石井 里枝 埼玉県衛生研究所 化学検査室長
- 井之上 浩一 学校法人立命館立命館大学薬学部薬学科臨床分析化学研究室教授
- 大山 和俊 一般財団法人残留農薬研究所化学部長
- 折戸 謙介 学校法人麻布獣医学園理事（兼）麻布大学獣医学部生理学教授
- 加藤 くみ子 学校法人北里研究所北里大学薬学部分析化学教室教授
- 魏 民 公立大学法人大阪大阪公立大学大学院医学研究科
環境リスク評価学准教授
- 佐藤 洋 国立大学法人岩手大学農学部共同獣医学科比較薬理毒性学研究室教授
- 佐野 元彦 国立大学法人東京海洋大学学術研究院海洋生物資源学部門教授
- 須恵 雅之 学校法人東京農業大学応用生物科学部農芸化学科
生物有機化学研究室准教授
- 瀧本 秀美 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
国立健康・栄養研究所栄養疫学・食育研究部長
- 中島 美紀 国立大学法人金沢大学ナノ生命科学研究所
薬物代謝安全性学研究室教授
- 永山 敏廣 学校法人明治薬科大学薬学部特任教授
- 根本 了 国立医薬品食品衛生研究所食品部主任研究官
- 野田 隆志 一般社団法人日本植物防疫協会信頼性保証室付技術顧問
- 二村 睦子 日本生活協同組合連合会常務理事

(○：部会長)

答申（案）

エトフェンプロックス

食品名	残留基準値 ppm
米（玄米をいう。）	0.3
小麦	0.3
大麦	3
ライ麦	3
とうもろこし	0.3
その他の穀類 ^{注1)}	5
大豆	0.1
小豆類 ^{注2)}	0.05
えんどう	0.01
そら豆	0.05
らっかせい	0.01
その他の豆類 ^{注3)}	0.05
ばれいしょ	0.05
さといも類（やつがしらを含む。）	0.02
かんしょ	0.01
やまいも（長いものをいう。）	0.02
てんさい	0.3
さとうきび	0.03
だいこん類（ラディッシュを含む。）の根	0.2
だいこん類（ラディッシュを含む。）の葉	20
はくさい	7
キャベツ	0.9
ブロッコリー	10
その他のあぶらな科野菜 ^{注4)}	1
レタス（サラダ菜及びちしやを含む。）	3
その他のきく科野菜 ^{注5)}	10
ねぎ（リーキを含む。）	2
みつば	6
その他のせり科野菜 ^{注6)}	2
トマト	2
ピーマン	7
なす	2
その他のなす科野菜 ^{注7)}	2

食品名	残留基準値 ppm
きゅうり（ガーキンを含む。）	1
かぼちゃ（スカッシュを含む。）	1
すいか（果皮を含む。）	2
メロン類果実（果皮を含む。）	2
まくわうり（果皮を含む。）	0.2
その他のうり科野菜 ^{注8)}	1
オクラ	3
しょうが	4
未成熟えんどう	3
未成熟いんげん	4
えだまめ	3
その他の野菜 ^{注9)}	15
みかん（外果皮を含む。）	10
なつみかんの果実全体	10
レモン	10
オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）	10
グレープフルーツ	10
ライム	10
その他のかんきつ類果実 ^{注10)}	10
りんご	5
日本なし	2
西洋なし	2
もも（果皮及び種子を含む。）	3
ネクタリン	0.6
ぶどう	4
かき	2
マンゴー	5
なたね	0.01
くり	0.05
茶	10
その他のスパイス ^{注11)}	40
その他のハーブ ^{注12)}	0.7

食品名	残留基準値 ppm
牛の筋肉	0.2
豚の筋肉	0.2
その他の陸棲哺乳類に属する動物 ^{注13)} の筋肉	0.2
牛の脂肪	6
豚の脂肪	6
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	6
牛の肝臓	0.3
豚の肝臓	0.3
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.3
牛の腎臓	0.4
豚の腎臓	0.4
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.4
牛の食用部分 ^{注14)}	0.4
豚の食用部分	0.4
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.4
乳	0.4
鶏の筋肉	0.02
その他の家きん ^{注15)} の筋肉	0.02
鶏の脂肪	1
その他の家きんの脂肪	1
鶏の肝臓	0.07
その他の家きんの肝臓	0.07
鶏の腎臓	0.07
その他の家きんの腎臓	0.07
鶏の食用部分	0.07
その他の家きんの食用部分	0.07
鶏の卵	0.4
その他の家きんの卵	0.4
魚介類	0.8

- 注1) 「その他の穀類」とは、穀類のうち、米（玄米をいう。）、小麦、大麦、ライ麦、とうもろこし及びそば以外のものをいう。
- 注2) 「小豆類」には、いんげん、ささげ、サルタニ豆、サルタピア豆、バター豆、ペギア豆、ホワイト豆、ライマ豆及びレンズ豆を含む。
- 注3) 「その他の豆類」とは、豆類のうち、大豆、小豆類、えんどう、そら豆、らっかせい及びスパイス以外のものをいう。
- 注4) 「その他のあぶらな科野菜」とは、あぶらな科野菜のうち、だいこん類（ラディッシュを含む。）の根、だいこん類（ラディッシュを含む。）の葉、かぶ類の根、かぶ類の葉、西洋わさび、クレソン、はくさい、キャベツ、芽キャベツ、ケール、こまつな、きょうな、チンゲンサイ、カリフラワー、ブロッコリー及びハーブ以外のものをいう。
- 注5) 「その他のきく科野菜」とは、きく科野菜のうち、ごぼう、サルシフィー、アーティチョーク、チコリ、エンダイブ、しゅんぎく、レタス（サラダ菜及びちしゃを含む。）及びハーブ以外のものをいう。
- 注6) 「その他のせり科野菜」とは、せり科野菜のうち、にんじん、パースニップ、パセリ、セロリ、みつば、スパイス及びハーブ以外のものをいう。
- 注7) 「その他のなす科野菜」とは、なす科野菜のうち、トマト、ピーマン及びなす以外のものをいう。
- 注8) 「その他のうり科野菜」とは、うり科野菜のうち、きゅうり（ガーキンを含む。）、かぼちゃ（スカッシュを含む。）、しろうり、すいか、メロン類果実及びまくわうり以外のものをいう。
- 注9) 「その他の野菜」とは、野菜のうち、いも類、てんさい、さとうきび、あぶらな科野菜、きく科野菜、ゆり科野菜、せり科野菜、なす科野菜、うり科野菜、ほうれんそう、たけのこ、オクラ、しょうが、未成熟えんどう、未成熟いんげん、えだまめ、きのこ類、スパイス及びハーブ以外のものをいう。
- 注10) 「その他のかんきつ類果実」とは、かんきつ類果実のうち、みかん、なつみかん、なつみかんの外果皮、なつみかんの果実全体、レモン、オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）、グレープフルーツ、ライム及びスパイス以外のものをいう。
- 注11) 「その他のスパイス」とは、スパイスのうち、西洋わさび、わさびの根茎、にんにく、とうがらし、パプリカ、しょうが、レモンの果皮、オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）の果皮、ゆずの果皮及びごまの種子以外のものをいう。
- 注12) 「その他のハーブ」とは、ハーブのうち、クレソン、にら、パセリの茎、パセリの葉、セロリの茎及びセロリの葉以外のものをいう。
- 注13) 「その他の陸棲哺乳類に属する動物」とは、陸棲哺乳類に属する動物のうち、牛及び豚以外のものをいう。
- 注14) 「食用部分」とは、食用に供される部分のうち、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓以外の部分をいう。
- 注15) 「その他の家きん」とは、家きんのうち、鶏以外のものをいう。